

2022年度 決算説明会資料

2023年5月19日

南海電気鉄道株式会社

(東証プライム市場 9044)



‘なんかいね’があふれてる
 **NANKAI**

目次

I. 2022年度 決算概要	2
II. 2023年度 業績予想	22
III. 新経営体制について	29
IV. 中期経営計画「共創140計画」の進捗状況	33
Appendix	56

I. 2022年度 決算概要



業績ハイライト①

(単位:百万円)

	2022年度 実績 (A)	2021年度 実績 (B)	対2021年度実績		2022年度 予想 (2022年10月公表) (C)	対2022年度予想	
			増減額 (A-B)	増減率		増減額 (A-C)	増減率
営業収益	221,280	201,793	19,487	9.7%	227,300	△ 6,019	△ 2.6%
営業利益	21,023	12,190	8,833	72.5%	17,000	4,023	23.7%
営業外収益	2,264	2,004	259	13.0%			
営業外費用	4,322	4,263	59	1.4%			
経常利益	18,965	9,931	9,033	91.0%	14,400	4,565	31.7%
特別利益	3,009	25,282	△ 22,272	△ 88.1%			
特別損失	2,600	27,028	△ 24,427	△ 90.4%			
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,623	4,021	10,601	263.6%	10,100	4,523	44.8%

<主な増減理由:対2021年度実績>

運輸業における輸送人員の増加や、建設業における完成工事高の増加等により増収増益

<主な増減理由:対2022年10月公表予想>

建設業における完成工事高の減少により減収となった一方、各セグメントにおける経費や修繕費等の費用節減もあり増益

業績ハイライト②

(単位:百万円)

	2022年度 実績 (A)	2021年度 実績 (B)	対2021年度実績		2022年度 予想 (2022年10月公表) (C)	対2022年度予想	
			増減額 (A-B)	増減率		増減額 (A-C)	増減率
投資額	27,872	21,408	6,464	30.2%	42,800	△ 14,927	△ 34.9%
減価償却費	27,619	28,591	△ 972	△ 3.4%	27,800	△ 180	△ 0.7%
E B I T D A ※	49,645	41,568	8,077	19.4%	45,700	3,945	8.6%
有利子負債残高	474,514	482,487	△ 7,972	△ 1.7%	479,700	△ 5,185	△ 1.1%
純有利子負債残高	436,105	446,017	△ 9,911	△ 2.2%	455,500	△ 19,394	△ 4.3%
有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	9.6倍	11.6倍	△ 2.0pt	—	10.5倍	△ 0.9pt	—
純有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	8.8倍	10.7倍	△ 1.9pt	—	10.0倍	△ 1.2pt	—

<主な増減理由:対2021年度実績>

投資額 大阪府食品流通センターE棟の竣工等による増加

純有利子負債残高 利益計上等による借入金の削減

<主な増減理由:対2022年10月公表予想>

投資額 投資の期ズレ等による減少

純有利子負債残高 投資の期ズレや増益等による減少

‘なんかいいね’があふれてる



※ 営業利益+受取配当金+減価償却費

セグメントの構成状況（2023年3月末現在）

【連結子会社54社・非連結子会社17社・持分法非適用関連会社6社】

増減（対2022年3月末）

連結子会社の増加 3社：（会社分割）南海システムソリューションズ株式会社
（新規設立）南海リートマネジメント株式会社、eスタジアム株式会社

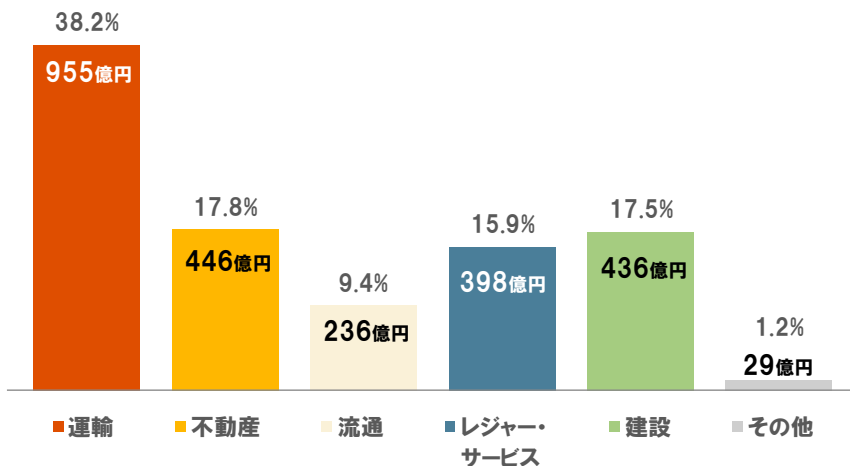
連結子会社の減少 3社：（グループ内合併）南海ウイングバス金岡株式会社、ライフコミュニティ株式会社
（株式譲渡）南海印刷株式会社

非連結子会社の増加 1社：（新規設立）Nankai Global Forwarding (Asia) Co., Limited

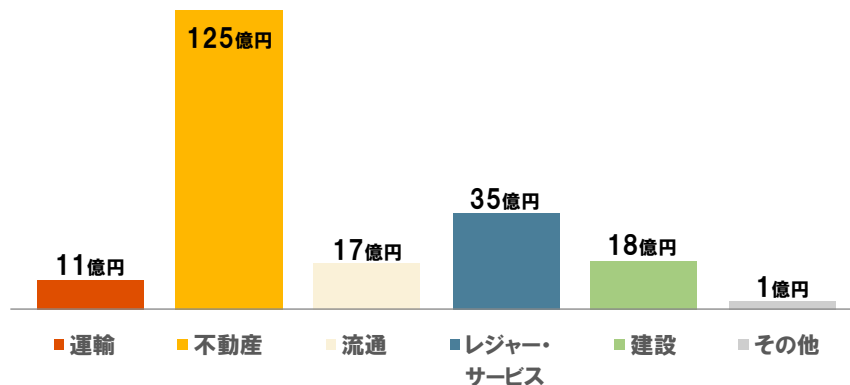


※ 当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

【セグメント別営業収益】



【セグメント別営業利益】

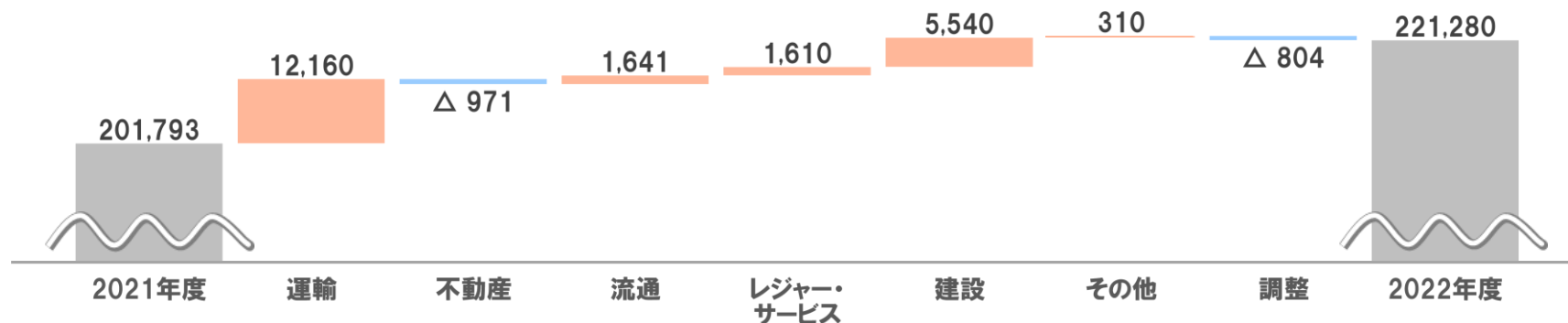


※ 構成比: セグメント間取引を含む営業収益に対する比率

セグメント別営業収益・営業利益（対2021年度実績）

① 営業収益の増減額（対2021年度実績）

（単位：百万円）



② 営業利益の増減額（対2021年度実績）



セグメント別営業収益・営業利益（対2021年度実績）

（単位：百万円）

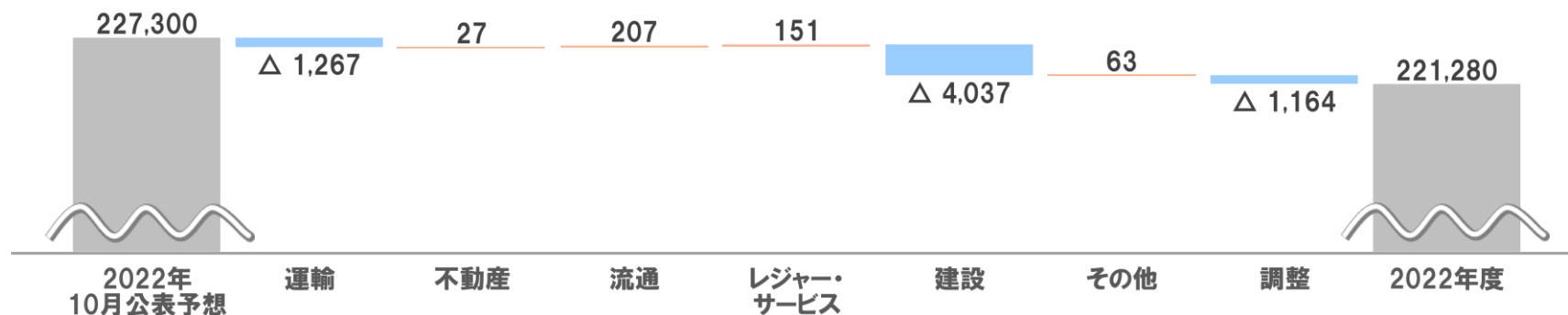
	営業収益				営業利益			
	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
運 輸 業	95,532	83,371	12,160	14.6%	1,152	△ 7,382	8,534	—
不 動 産 業	44,627	45,598	△ 971	△ 2.1%	12,570	12,577	△ 7	△ 0.1%
流 通 業	23,607	21,965	1,641	7.5%	1,710	1,144	565	49.4%
レジャー・ サービス業	39,851	38,241	1,610	4.2%	3,550	3,834	△ 283	△ 7.4%
建 設 業	43,662	38,121	5,540	14.5%	1,889	1,959	△ 69	△ 3.6%
その他の事業	2,963	2,653	310	11.7%	175	176	△ 0	△ 0.5%
調 整 額	△ 28,964	△ 28,159	—	—	△ 25	△ 120	—	—
合 計	221,280	201,793	19,487	9.7%	21,023	12,190	8,833	72.5%

‘なんかいいね’があふれてる

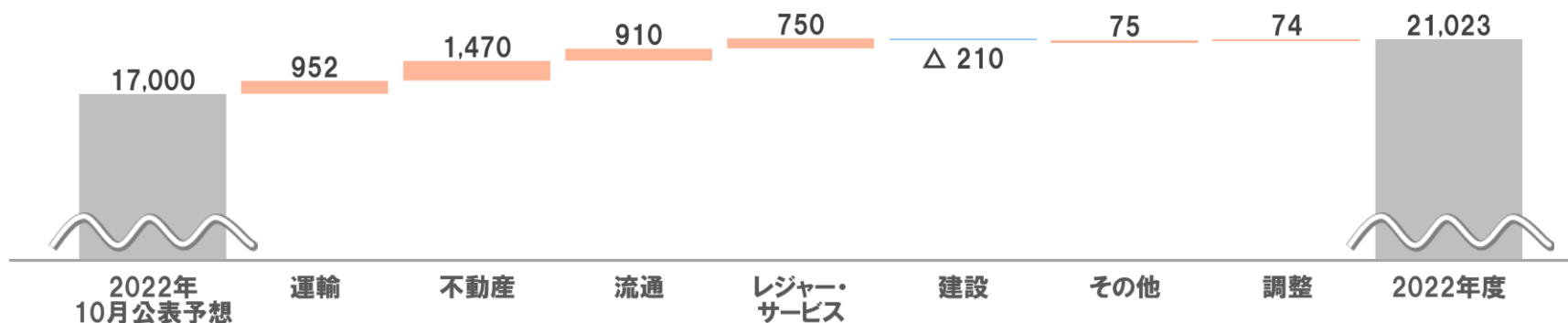
セグメント別営業収益・営業利益（対2022年10月公表）

① 営業収益の増減額（対2022年10月公表予想）

（単位：百万円）



② 営業利益の増減額（対2022年10月公表予想）



セグメント別営業収益・営業利益（対2022年10月公表）

（単位：百万円）

	営業収益				営業利益			
	2022年度 実績	2022年度 予想 (2022年10月公表)	増減額	増減率	2022年度 実績	2022年度 予想 (2022年10月公表)	増減額	増減率
運 輸 業	95,532	96,800	△ 1,267	△ 1.3%	1,152	200	952	476.1%
不 動 産 業	44,627	44,600	27	0.1%	12,570	11,100	1,470	13.2%
流 通 業	23,607	23,400	207	0.9%	1,710	800	910	113.8%
レジャー・ サービス業	39,851	39,700	151	0.4%	3,550	2,800	750	26.8%
建 設 業	43,662	47,700	△ 4,037	△ 8.5%	1,889	2,100	△ 210	△ 10.0%
その他の事業	2,963	2,900	63	2.2%	175	100	75	75.8%
調 整 額	△ 28,964	△ 27,800	—	—	△ 25	△ 100	—	—
合 計	221,280	227,300	△ 6,019	△ 2.6%	21,023	17,000	4,023	23.7%

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(運輸業)

(単位:百万円)

運輸業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	95,532	83,371	12,160	14.6%
鉄道事業	56,393	48,078	8,315	17.3%
バス事業	20,262	17,513	2,748	15.7%
その他の運輸業	25,757	24,077	1,680	7.0%
調整額(セグメント内)	△ 6,881	△ 6,297	—	—
営業利益	1,152	△ 7,382	8,534	—
主な内訳				
鉄道事業	1,034	△ 5,545	6,580	—
バス事業	172	△ 1,614	1,787	—

<主な増減理由>

・鉄道事業やバス事業において前期と比べ輸送人員が増加したことや、貨物運送業において上半期に輸送運賃高騰の影響があったこと等により増収、損益改善

鉄道旅客収入及び輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人)

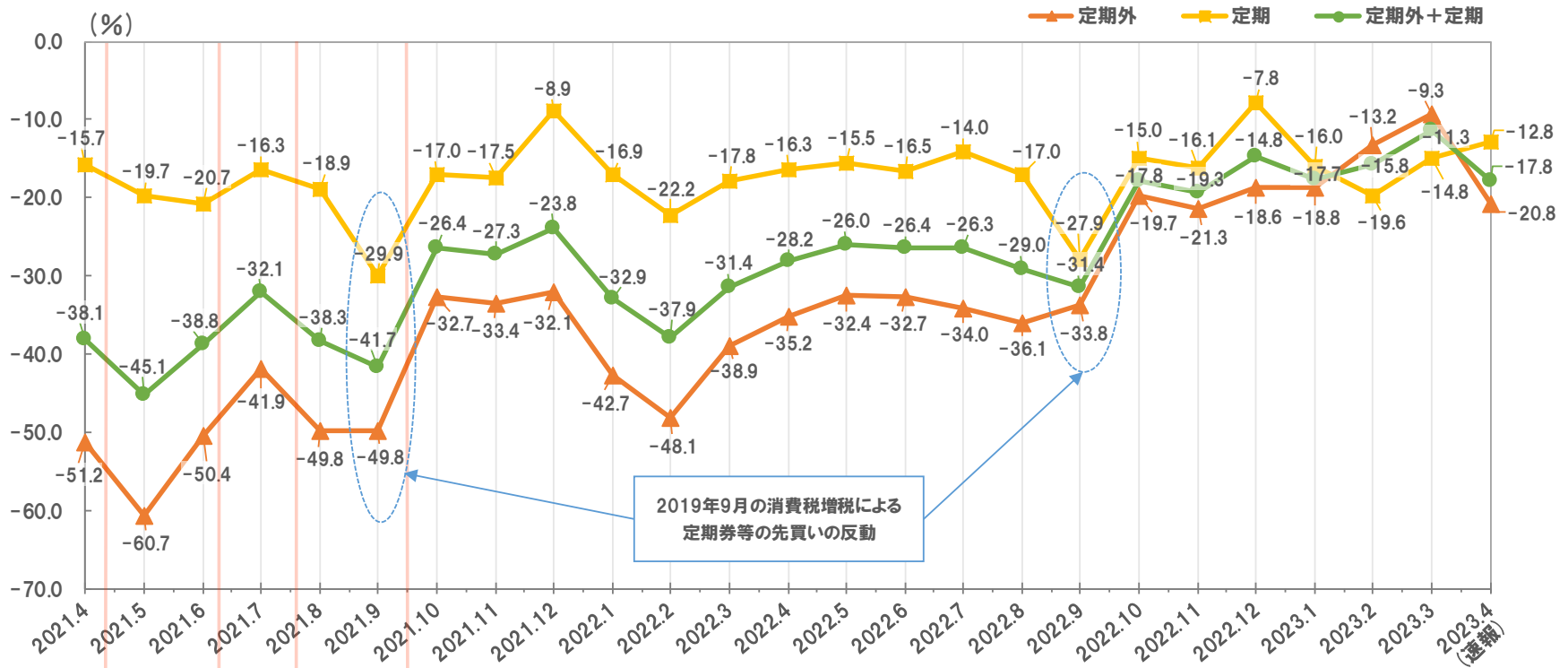
全線			2022年度 実績	2021年度 実績	増減	増減率
旅客収入	定期	外	27,486	20,538	6,948	33.8%
	定期	期	18,971	18,495	475	2.6%
	合	計	46,457	39,033	7,424	19.0%
輸送人員	定期	外	82,077	65,964	16,113	24.4%
	定期	期	121,694	116,887	4,807	4.1%
	合	計	203,771	182,851	20,920	11.4%

空港線			2022年度 実績	2021年度 実績	増減	増減率
旅客収入	定期	外	4,953	2,203	2,749	124.8%
	定期	期	889	780	109	14.0%
	合	計	5,843	2,984	2,859	95.8%
輸送人員	定期	外	6,494	3,194	3,300	103.3%
	定期	期	3,020	2,631	389	14.8%
	合	計	9,514	5,825	3,689	63.3%

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(運輸業)

【参考1】(個別－全線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



緊急事態
宣言期間

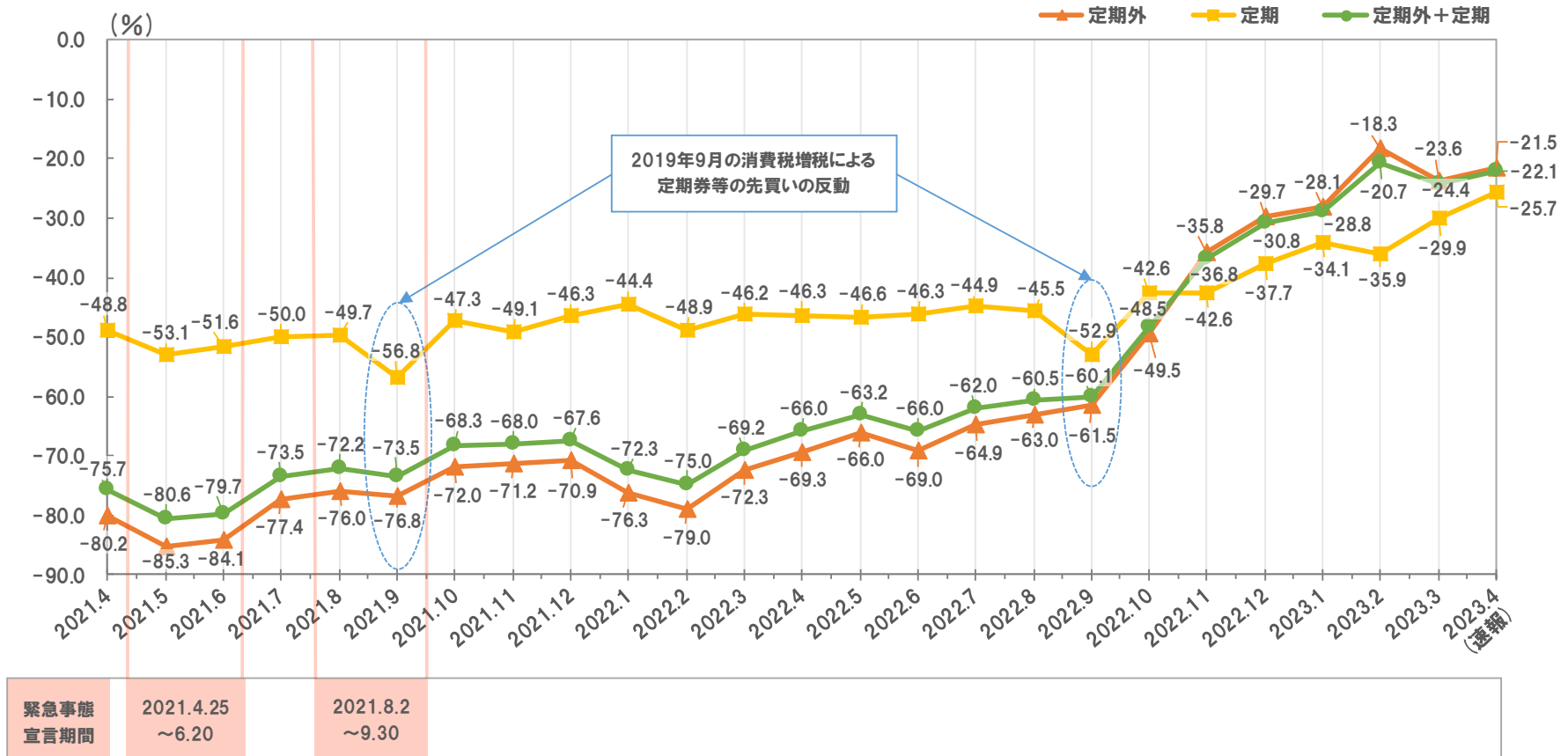
2021.4.25
～6.20

2021.8.2
～9.30

※ 2021年4月以降は「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(運輸業)

【参考2】(個別-空港線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



※ 2021年4月以降は「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(不動産業)

(単位:百万円)

不動産業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	44,627	45,598	△ 971	△ 2.1%
不動産賃貸業	33,968	32,531	1,437	4.4%
不動産販売業	10,943	13,477	△ 2,533	△ 18.8%
調整額(セグメント内)	△ 284	△ 409	—	—
営業利益	12,570	12,577	△ 7	△ 0.1%
主な内訳				
不動産賃貸業	12,049	11,625	424	3.7%
不動産販売業	699	1,115	△ 416	△ 37.3%

<主な増減理由>

- ・不動産賃貸業は、入国制限の緩和に伴うホテル賃貸料収入の増加等により増収増益
- ・不動産販売業は、マンション販売の減少等により減収減益

セグメント情報(流通業)

(単位:百万円)

流通業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	23,607	21,965	1,641	7.5%
ショッピングセンターの経営	13,981	12,260	1,721	14.0%
駅ビジネス事業	11,002	10,705	297	2.8%
その他の流通業	386	609	△ 222	△ 36.5%
調整額(セグメント内)	△ 1,763	△ 1,608	—	—
営業利益	1,710	1,144	565	49.4%
主な内訳				
ショッピングセンターの経営	1,009	581	428	73.8%
駅ビジネス事業	833	618	215	34.8%

<主な増減理由>

・ショッピングセンターの経営において、前期に緊急事態宣言の発出に伴い商業施設(なんばパークス、なんばCITY等)を臨時休館したことの反動等により増収増益

セグメント情報(レジャー・サービス業)

(単位:百万円)

レジャー・サービス業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	39,851	38,241	1,610	4.2%
ビル管理メンテナンス業	23,684	23,757	△ 72	△ 0.3%
その他のレジャー・サービス業	18,266	16,356	1,910	11.7%
調整額(セグメント内)	△ 2,099	△ 1,872	—	—
営業利益	3,550	3,834	△ 283	△ 7.4%
主な内訳 ビル管理メンテナンス業	1,020	1,353	△ 332	△ 24.6%

<主な増減理由>

- ・ビル管理メンテナンス業は、ビルメンテナンス収入の減少等により減収減益
- ・その他のレジャー・サービス業は、旅行業やポートレース施設賃貸業において新型コロナウイルス感染症の影響が前期と比べ縮小したこと等により増収増益

セグメント情報(建設業 / その他の事業)

(単位:百万円)

建設業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	43,662	38,121	5,540	14.5%
建設業	43,689	38,156	5,532	14.5%
調整額(セグメント内)	△ 26	△ 34	—	—
営業利益	1,889	1,959	△ 69	△ 3.6%

<主な増減理由> 完成工事高の増加等により増収、利益率の低下等により減益

(単位:百万円)

その他の事業	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	増減率
営業収益	2,963	2,653	310	11.7%
その他の事業	2,998	2,663	334	12.6%
調整額(セグメント内)	△ 34	△ 10	—	—
営業利益	175	176	△ 0	△ 0.5%

<主な増減理由> システム収入の増加等により増収

営業外・特別損益の状況

(単位:百万円)

	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	摘要
営業外収益	2,264	2,004	259	
受取利息	25	24	1	
受取配当金	1,003	786	216	
雑収入	1,235	1,193	42	
営業外費用	4,322	4,263	59	
支払利息	3,494	3,817	△ 322	
雑支出	827	446	381	
特別利益	3,009	25,282	△ 22,272	
収用補償金	805	—	805	
工事負担金等受入額	619	23,311	△ 22,691	前期:高石市内連続立体交差化工事(上り線)他
固定資産売却益	548	1	547	
協力金収入	545	—	545	
その他	491	1,969	△ 1,478	前期:大規模施設等協力金 他
特別損失	2,600	27,028	△ 24,427	
固定資産除却損	994	658	335	
工事負担金等圧縮額	578	23,268	△ 22,690	前期:高石市内連続立体交差化工事(上り線)他
減損損失	366	943	△ 576	
その他	661	2,157	△ 1,496	前期:商業施設臨時休館期間にかかる固定費 他

‘なんかいいね’があふれてる

資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

	2022年度末	2021年度末	増減額	主な増減理由												
流動資産	103,616	85,147	18,468	<ul style="list-style-type: none"> ●流動資産 ・固定資産からの振替等による商品及び製品の増加 +102億円 ・未収金の増加等による流動資産その他の増加 +55億円 												
固定資産	831,497	835,829	△ 4,332	<ul style="list-style-type: none"> ●固定資産 ・減価償却等に伴う建物及び構築物の減少 △104億円 ・商品及び製品への振替等による土地の減少 △43億円 ・建設仮勘定の増加 +96億円 												
資産合計	935,113	920,976	14,136	<ul style="list-style-type: none"> ●負債 ・前受金の増加等による流動負債その他の増加 +59億円 ・繰延税金負債の増加 +21億円 												
負債合計	660,526	660,260	266	<ul style="list-style-type: none"> 【有利子負債残高】 (単位:億円) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2022年度末</th> <th>2021年度末</th> <th>増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有利子負債</td> <td>4,745</td> <td>4,824</td> <td>△ 79</td> </tr> <tr> <td>純有利子負債</td> <td>4,361</td> <td>4,460</td> <td>△ 99</td> </tr> </tbody> </table>		2022年度末	2021年度末	増減額	有利子負債	4,745	4,824	△ 79	純有利子負債	4,361	4,460	△ 99
	2022年度末	2021年度末	増減額													
有利子負債	4,745	4,824	△ 79													
純有利子負債	4,361	4,460	△ 99													
純資産	274,586	260,716	13,870	<ul style="list-style-type: none"> ●純資産 ・親会社株主に帰属する当期純利益 +146億円 ・その他有価証券評価差額金 +19億円 ・剰余金の配当 △28億円 												
負債純資産合計	935,113	920,976	14,136													

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	39,086	41,879	△ 2,793	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動によるキャッシュ・フロー ・売上債権の増減 △85億円 ・棚卸資産の増減 △59億円 ・税金等調整前当期純利益 +111億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 26,305	△ 19,669	△ 6,635	<ul style="list-style-type: none"> ● 投資活動によるキャッシュ・フロー ・固定資産の取得による支出 △97億円 ・投資有価証券の取得による支出 +16億円 ・工事負担金等受入による収入 +11億円
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 11,341	△ 27,026	15,684	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務活動によるキャッシュ・フロー ・有利子負債増減額 +159億円 ○ 当期 借入金 △179億円 社債 +99億円 ○ 前期 借入金 △239億円
現金及び現金 同等物の期末残高	37,540	36,101	1,439	

投資額・EBITDA(セグメント別)

(単位:百万円)

	投資額			EBITDA ※1		
	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額	2022年度 実績	2021年度 実績	増減額
運 輸 業	13,781	11,811	1,969	16,469	8,482	7,987
不 動 産 業	11,006	6,553	4,452	20,433	20,471	△ 38
流 通 業	1,711	1,430	280	5,650	5,440	210
レジャー・ サービス業	1,300	1,557	△ 257	4,839	5,130	△ 290
建 設 業	69	47	21	2,013	2,096	△ 83
その他の事業	3	6	△ 3	187	189	△ 2
調 整 額	—	—	—	※2 51	※2 △ 242	294
合 計	27,872	21,408	6,464	49,645	41,568	8,077

※1 営業利益+受取配当金+減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

II. 2023年度 業績予想

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2023年度 予想	2022年度 実績	増減額	主な増減要因
営業収益	253,900	221,280	32,619	<ul style="list-style-type: none"> ●営業収益 運輸業における旅客需要の回復や鉄道の運賃改定、不動産業の物件販売収入計上などにより増収 ●営業利益 運輸業の収支改善により増益 ●親会社株主に帰属する当期純利益 営業増益および固定資産売却益の計上などにより増益 ●投資額 鉄道車両の新造やなにわ筋線関連出資などにより増加 ●有利子負債残高 不動産業の物件販売収入に加えて、現預金の段階的な取崩により削減
営業利益	24,300	21,023	3,276	
経常利益	21,400	18,965	2,434	
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,200	14,623	3,576	
投資額	52,300	27,872	24,427	
減価償却費	28,200	27,619	580	
E B I T D A ※	53,700	49,645	4,054	
有利子負債残高	451,400	474,514	△ 23,114	
純有利子負債残高	429,800	436,105	△ 6,305	
有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	8.4倍	9.6倍	△ 1.2pt	
純有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	8.0倍	8.8倍	△ 0.8pt	

‘なんかいね’があふれてる



※ 営業利益+受取配当金+減価償却費

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2023年度 予想	2022年度 実績	増減額	主な増減要因
運 輸 業	営業収益	108,400	95,532	12,867	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業 +80億円(当社 運賃改定効果+19億円) ・空港線収入 +32億円 ・バス事業 +23億円 ・貨物運送業 +21億円
	営業利益	5,900	1,152	4,747	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業 +37億円 ・バス事業 +7億円
不 動 産 業	営業収益	52,800	44,627	8,172	・不動産販売業 +80億円
	営業利益	11,800	12,570	△ 770	<ul style="list-style-type: none"> ・不動産賃貸業 △18億円 ・不動産販売業 +11億円
流 通 業	営業収益	25,200	23,607	1,592	<ul style="list-style-type: none"> ・駅ビジネス +10億円 ・SC経営 +7億円
	営業利益	1,600	1,710	△ 110	・SC経営 △3億円

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2023年度 予想	2022年度 実績	増減額	主な増減要因
レジャー・ サービス業	営業収益	43,400	39,851	3,548	・ビル管理メンテナンス業 +18億円 ・その他 +19億円(旅行業他)
	営業利益	2,600	3,550	△ 950	・ビル管理メンテナンス業 △1億円 ・その他 △8億円(旅行業他)
建設業	営業収益	48,400	43,662	4,737	完成工事高の増
	営業利益	2,300	1,889	410	増収による増益
その他の 業	営業収益	3,100	2,963	136	
	営業利益	100	175	△ 75	
調整額	営業収益	△ 27,400	△ 28,964	—	
	営業利益	△ 0	△ 25	—	
合計	営業収益	253,900	221,280	32,619	
	営業利益	24,300	21,023	3,276	

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額				EBITDA ※1		
	2023年度 予想	2022年度 実績	増減額	予想額 主な内訳	2023年度 予想	2022年度 実績	増減額
運 輸 業	30,100	13,781	16,318	<収益拡大投資 145億円> ・なんばエリア周辺開発 71億円	21,700	16,469	5,230
不 動 産 業	14,400	11,006	3,393	<安全・更新投資 324億円> ・鉄道関連工事 173億円 車両新造、高架橋補強等	19,700	20,433	△ 733
流 通 業	5,300	1,711	3,588	・不動産及び流通施設工事 72億円	5,700	5,650	49
レジャー・ サービス業	3,400	1,300	2,099	<未来探索投資 64億円> ・新規事業 10億円 eスポーツ事業他	3,900	4,839	△ 939
建 設 業	100	69	30		2,400	2,013	386
その他の事業	0	3	△ 3		100	187	△ 87
調 整 額	△ 1,000	—	—		※2 200	※2 51	—
合 計	52,300	27,872	24,427		53,700	49,645	4,054

※1 営業利益+受取配当金+減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

【当社鉄道線 業績予想の前提条件】

- ・コロナによる減収影響は、前年度から縮小するものの、生活様式の変化やインバウンド旅客が戻り切っていないことを踏まえ、空港線(定期外)でコロナ前(平年ベース)の△20%、既設線(定期外)で△10%で推移すると見込む。
- ・別途、2023年10月の運賃改定効果として19億円を織り込む。

(単位:百万円・千人)

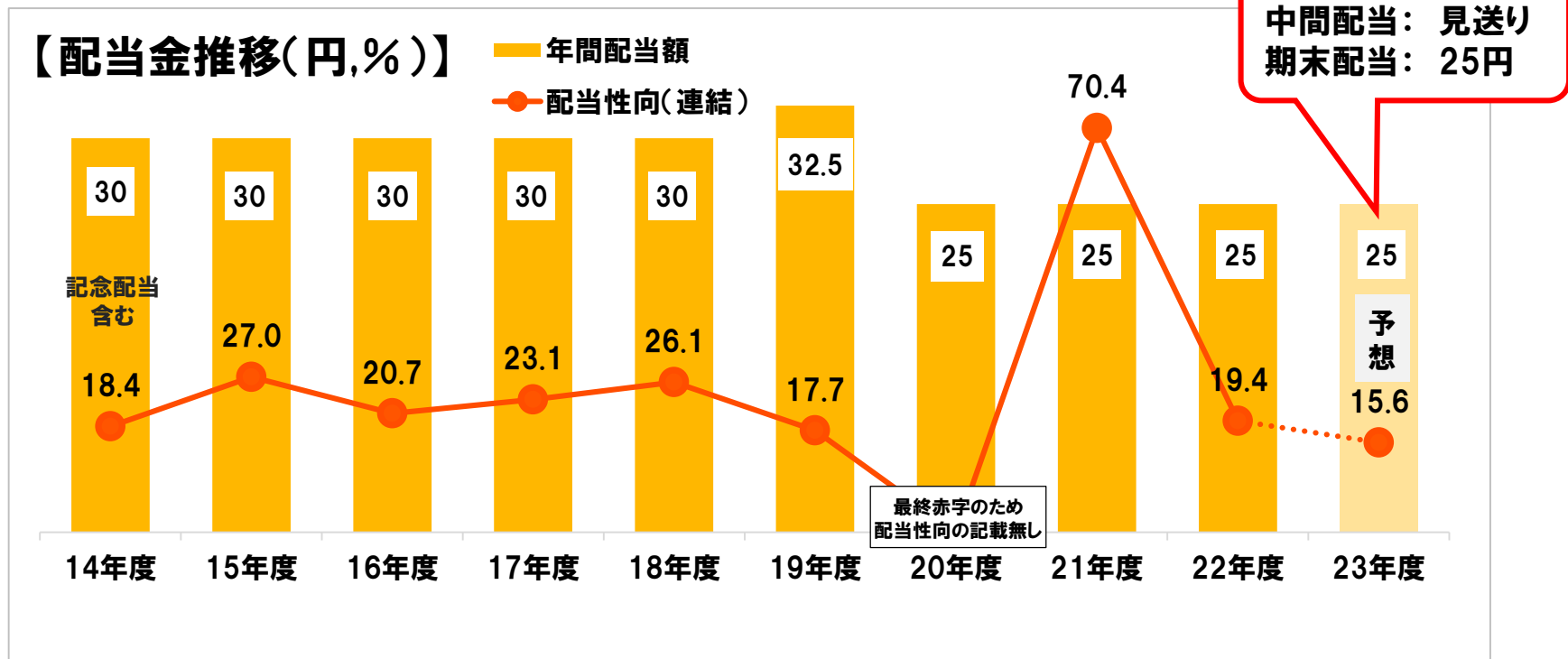
全線		2023年度 予想	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率	2021年度 実績	対前期 増減率
旅客収入	定期外	34,032	23.8%	27,486	33.8%	20,538	10.8%
	定期	20,462	7.9%	18,971	2.6%	18,495	△ 0.3%
	合計	54,495	17.3%	46,457	19.0%	39,033	5.2%
輸送人員	定期外	92,585	12.8%	82,077	24.4%	65,964	8.7%
	定期	124,712	2.5%	121,694	4.1%	116,887	△ 0.5%
	合計	217,297	6.6%	203,771	11.4%	182,851	2.6%

空港線		2023年度 予想	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率	2021年度 実績	対前期 増減率
旅客収入	定期外	7,862	58.7%	4,953	124.8%	2,203	30.7%
	定期	1,267	42.4%	889	14.0%	780	△ 6.9%
	合計	9,130	56.2%	5,843	95.8%	2,984	18.2%
輸送人員	定期外	9,708	49.5%	6,494	103.3%	3,194	24.1%
	定期	3,430	13.6%	3,020	14.8%	2,631	2.4%
	合計	13,138	38.1%	9,514	63.3%	5,825	13.2%

‘なんかいね’があふれてる

株主還元

- 長期にわたる安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化に努めつつ、収益のさらなる向上を図ることにより、安定的な配当原資を確保する
- 今後も、経営環境/業績の動向/設備投資その他の投資機会等の要素を広く総合的に考慮し、安定的な配当を継続する



※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
 ※2017年度以前は株式併合後ベースに換算した配当額(年間)を記載

III. 新経営体制について

新経営体制の方針

主な課題

- ・収益事業は、交通事業と不動産事業が主力
- ・交通事業は、現状のビジネスモデルでは、人口減少に伴う先細りが懸念
- ・第3の事業の育成が急務

課題解決に向けた打ち手

交通関連の部門・グループ会社を一体化
 不動産営業本部とまち共創本部を統合
 未来探索の体制強化

▶ 総合モビリティ事業へ進化

▶ まちづくりを一体的に推進

▶ 第3の柱育成

セグメント
経営体制の構築

×

権限委譲
責任明確化

=

経営のスピード向上
打ち手の実効性向上

新経営体制の方針

1. セグメント経営への移行

目的

グループ会社を含めた
セグメントごとの戦略策定・実行

セグメント単位での
経営責任の明確化、
収益の最大化

新たな価値を創造

サステナブルな経営へ

2. 権限委譲・責任明確化

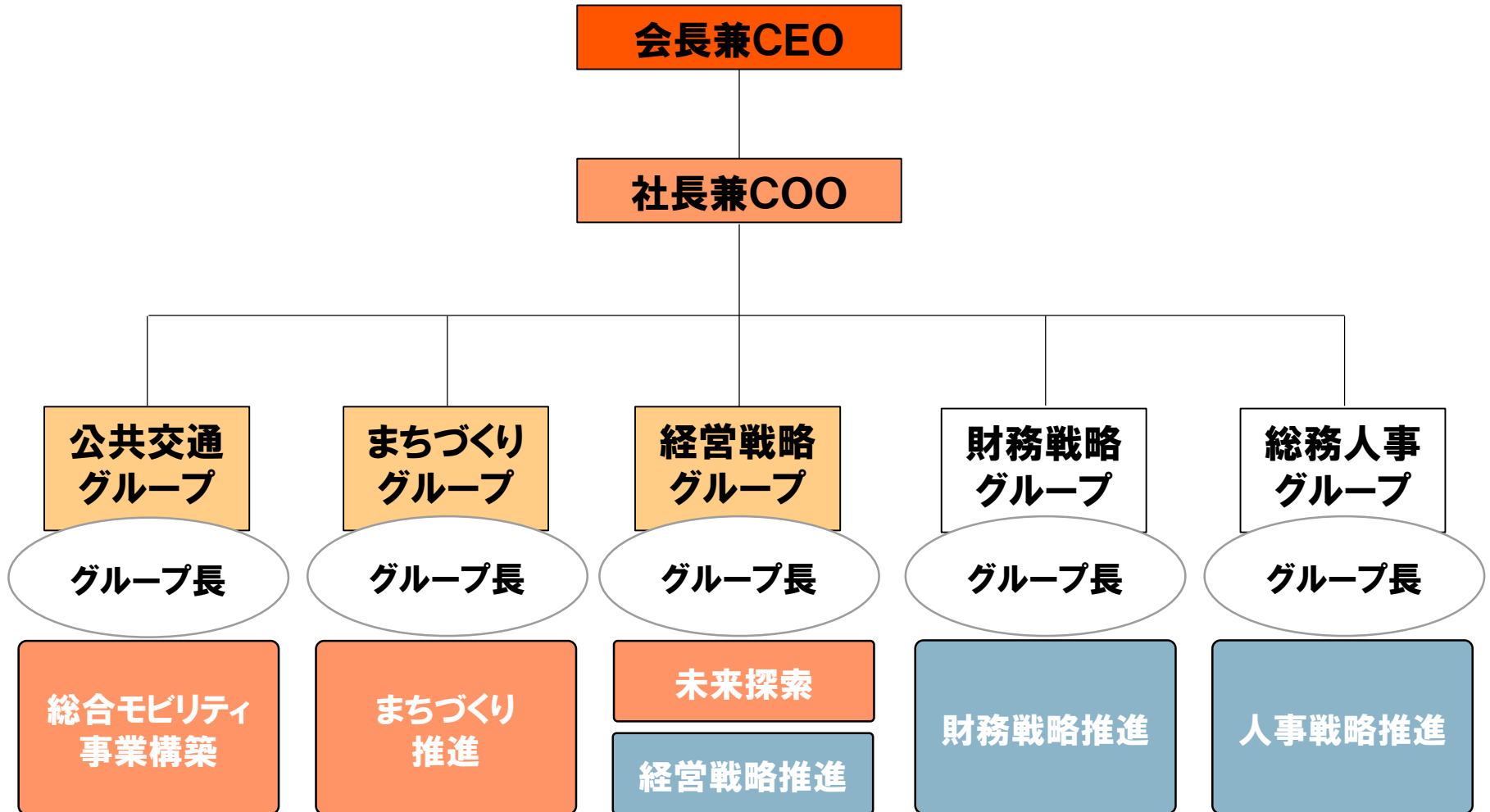
定性面(概念／プロセス)
定量面(金額)
双方の権限を
各グループ長に委譲

||

時代の変化に敏感に反応する
スピード感のある意思決定の実現

次世代の経営層育成

【参考】業務執行体制

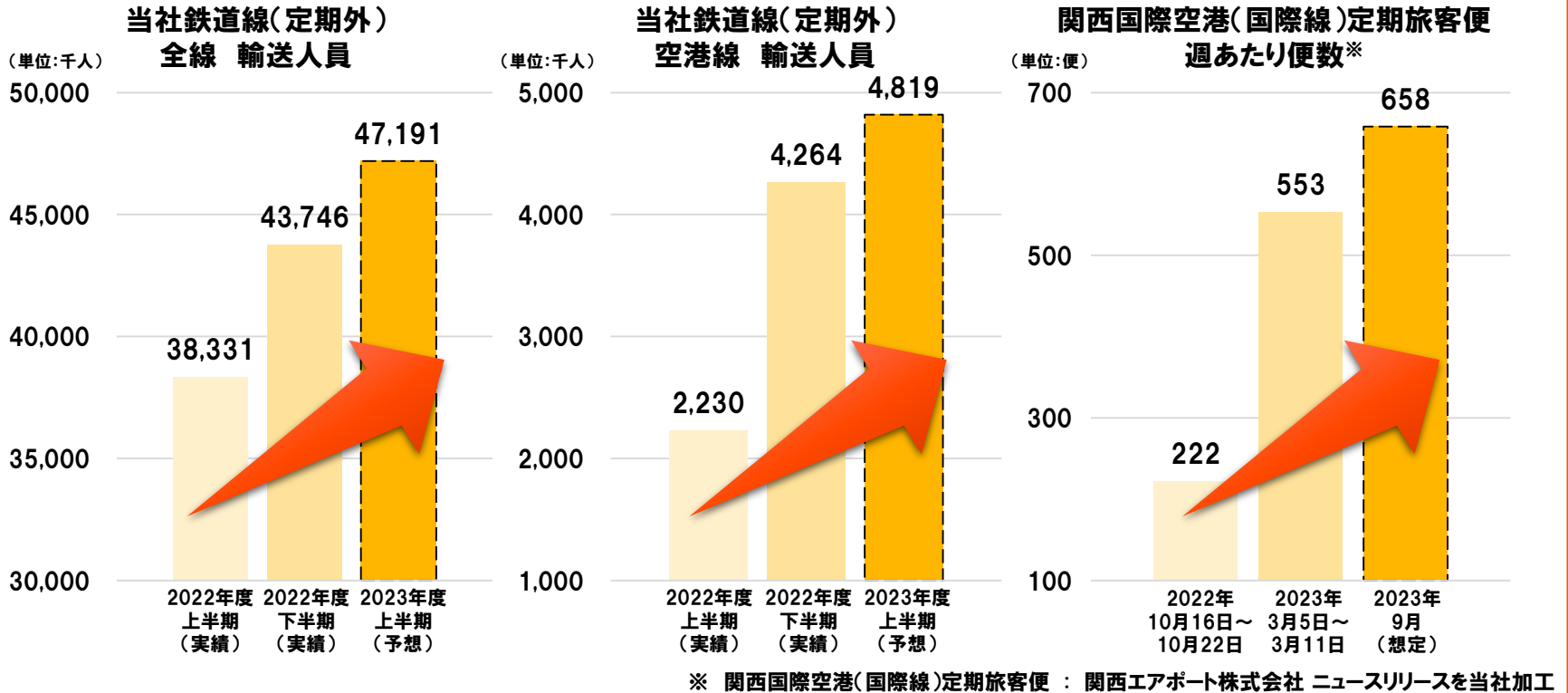


IV. 中期経営計画「共創140計画」の 進捗状況

経営環境の認識

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、社会・経済活動は正常化へ
 → インバウンド旅客を含む国内外旅行客の増、もう一段の収益回復を期待

<旅客需要の回復状況>



本格的な回復基調を的確に捉えながら、
さらなるスピード感をもって戦略打ち手を実行

中期経営計画「共創140計画」の位置づけ

基本方針

コロナ禍を経ての「再構築」と「成長への基礎構築」を行う期間

1. あらゆるステークホルダーとの“**共創の精神**”は不変
2. なにわ筋線開業に向けたコア事業の戦略投資を確実に実行
3. 未来に向けての成長の基礎を3年間で構築
 - ・「安全・更新」投資は、3年間で加速させ確実に実行
 - ・「南海グループ経営ビジョン2027」での2つの事業戦略の実行を加速
 - ・新たな事業の芽の育成にも十分な投資枠を確保

経営戦略

1. 公共交通事業のサステナブルな経営
2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大
3. 未来への取組み(未来探索)
4. 上記を支える、人事/財務戦略推進

2050年

南海の未来
(企業像)

なにわ筋線
開業

南海グループ
経営ビジョン
2027

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

深展133計画
(2015～2017年度)

共創136計画
(2018～2020年度)

2021年度
経営計画

共創140計画
(2022～2024年度)

次期中期
経営計画
(2025年度～)

‘なんかいね’があふれてる

「共創140計画」の主な事業戦略

1.公共交通事業の持続可能な経営 [設備投資:520億円]



- ・安全対策・災害対策の計画的な推進
- ・デジタルテクノロジー活用:新しい技術・枠組みの構築と予防保全の充実
- ・収益力の強化、ブランド・サービスの向上
- ・新たなサービス - 総合モビリティ事業への進化

2.選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大 [設備投資:930億円]



- ・地域共創型まちづくり
- ・“グレーターなんば”構想の加速 - “アジアのなんば”へ
- ・泉北ニュータウンの持続可能なまちづくり
- ・物流施設の高度化
- ・私募リート設立

3.未来探索 [設備投資:150億円]



- ・DX戦略 - デジタル顧客接点の構築と新価値創造
- ・新規事業への取組み加速
- ・外国人との共生
- ・ツーリズム関連事業の強化
- ・ニューノーマルでの新たなサービス提供

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

① 公共交通事業の持続可能な経営

戦略打ち手	2022年度 →これまでの具体的な取組み:p57~61参照	2023年度	2024年度
1 安全対策・災害対策 の計画的な推進	<p>連続立体交差事業(高石市内、堺市内)/車両内防犯カメラ設置/山岳区間における斜面防災対策 高架橋・駅施設等の耐震補強工事/バリアフリー化推進ほか</p> <p>【2022年度 実施施策】 ・車両側面カメラの試験的設置(2022.6~) ・車内防犯カメラの試験的設置(2022.10~) ・高野線大和川橋梁に 橋梁異状を検知するシステム導入(2023.1~)</p>	TCFDを考慮した投資計画の立案・実行	中百舌鳥駅4番線 ホームドア設置 (2024.4予定)
2 デジタルテクノロジー 活用	ワンマン運転の拡充検討(2024年度目標:南海本線一部区間への拡大)	自動運転の実証実験準備 ・ハード面の整備 ・システムに係る検討・安全性評価	試運転車両を用いた実証実験 →第三者委員会による検討・評価 「駅総合案内センター」新設 (2023年度内実施予定)
3 収益力の強化、 ブランド・サービスの 向上	車両更新/駅施設・駅トイレの美装化/大阪・関西万博を見据えたプロモーション推進	<p>【中百舌鳥駅リニューアル】 改札口の移設(2022.9)→商業区画再編/駅内外の美装化(2023.12予定)</p> <p>Visaのタッチ決済実証実験 (~2022.12)</p> <p>・運賃改定申請(2022.10) ・運賃改定認可(2023.2)</p>	<p>①タッチ決済サービスを継続。カードブランド拡大や利用駅の拡大など利便性向上施策を推進 ②QRコードを用いた「デジタルきっぷ」の継続的な提供および他社との連携強化</p> <p>運賃改定(2023.10~)</p>
4 新たなサービス	陸海空の輸送手段検討/MaaSの取組み推進	丸紅株式会社ほか3社と 空飛ぶクルマ実証実験 (2022.12~2023.1)	<p>(仮称)関西MaaSアプリ第1弾リリース (2023年夏予定)</p> <p>オンデマンドバス実証実験 @泉北エリア (2023.1~2023.3)</p> <p>総合モビリティ事業の推進</p>

【参考】公共交通事業のサステナブルな経営

総合モビリティ事業への進化

- バス事業のオペレーション変革で“ラストワンマイル”までの多彩なサービスを提供
- 地域の社会課題の解決と、持続的成長を両立



共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

② 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

戦略打ち手	2022年度 →これまでの具体的な取組み:p57~61参照	2023年度	2024年度
1 地域共創型まちづくり	地域活性化施策の実施(沿線価値向上プロジェクト)/沿線課題の解決/エリアブランディング 【重点課題と施策】 ・子育て/教育：子育て世代にとって「子育てするのが楽しいまち」を築き上げていくプロジェクト「家族にえがお+1」 ・産業振興/起業支援：沿線企業の魅力向上・発信に取り組む「採用・オープンファクトリー・イノベーション支援」 ・農業振興：沿線産物のブランディング、新たな販路拡大に取り組む「NANKAI FARMERS' MARKET」 ・リノベーションまちづくり：新たなまちのコンテンツ創出につなげる「リノベーションスクール@加太線」		
2 “グレーターなんば” 構想の加速	難波中二丁目開発計画 工事、リーシング、開業準備	なんばパークス サウス 2023.3 一部開業 2023.7 グランドオープン	なんば駅前広場～ なんさん南北通り整備 (2024年度末 完成予定)
	なんば駅前広場整備(2023年秋 先行供用開始予定)		
	恵美須町土地開発計画(シェアスタイル企業寮建設)		サザンレスト難波南 2023年秋 開業予定
	物件取得/所有物件の開発/既存物件の刷新		
3 泉北ニュータウンの サステナブルなまちづくり	泉ヶ丘駅前活性化計画 既存物件の一部解体(～2023.7予定)	泉ヶ丘駅前活性化計画 新築工事(2025.10開業予定)	
	泉北ニュータウンスマートシティ戦略推進		
	SENBOKUスマートシティ コンソーシアム設立(2022.6)	2022年度は会員数139団体 コンソーシアム発事業数11事業	2023年以降はモビリティ・ヘルスケア分野に加え、 スマートタウン分野にも注力予定
4 物流施設の高度化	E棟高度化工事	E棟開業 (2023.4)	
	II期棟高度化工事(2025年度末 竣工予定)		
5 私募リート設立	AM会社設立 (2022.10)	許認可に必要な手続きを進め、 投資法人の設立、早期運用開始を目指す	

‘なんかいね’があふれる

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

③ 未来探索

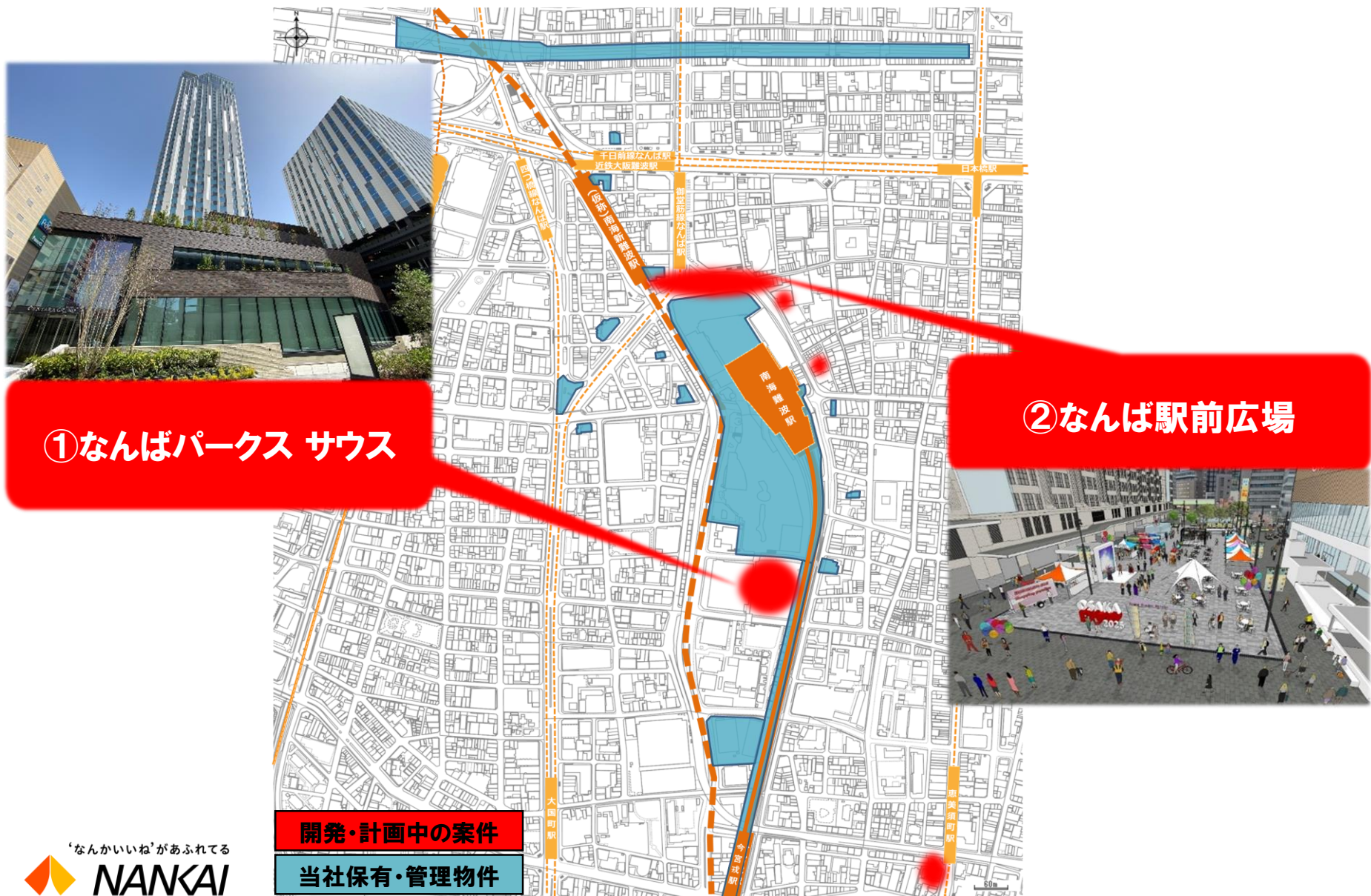
戦略打ち手	2022年度 →これまでの具体的な取組み:p57~61参照	2023年度	2024年度
1 DX戦略	デジタル顧客接点の拡充で暮らしやすさ向上/地域の人々と多彩なサービスをつなぐポータルサイト構築 駅で食事をピックアップするサービス「ビクルル」 実証実験(スカイオーバーカー:2022.7) (泉北高速鉄道 和泉中央駅:2023.2~3)	minapitaポイント新サービス開始(2023.3~)/サービス拡大検討	
2 新規事業への 取組み加速	eスポーツ事業に本格参入 → 関西におけるeスポーツ業界での地位確立、早期マネタイズ ・eスタジアム株式会社設立、事業開始(2022.6) 【行政受託】 泉佐野市「eスポーツMICE実証事業」採択 【施設運営】 eスタジアムいずみ開業、eスタジアム泉佐野開業、eスタジアム岐阜開業 【イベント】 eスポーツキャンプ開催、「VALORANT」公式大会関西特別パートナー就任	新規事業開発プログラム「Fly beyond」 → 事業創出支援プログラム「beyond the Border」 ・1期:3事業が法人化、経済産業省「大企業人材等新規事業創出支援事業費補助金」(出向起業等創出支援事業)に2年連続採択 ・2期:2案件が事業化に向けて検討中 ・3期:経済産業省主導の「客員起業家(EIR)の活用に係る実証事業」に採択されたことを受け、社外人財を募集	
3 外国人との共生	ハード/ソフトの両面で外国人とともにサステナブルなまちづくりを推進 <ハード面> 新今宮に所有する当社施設内に学生寮を誘致 <ソフト面> 海外IT人材紹介事業「Japal」の本格事業化(2022.11~)、産学金での事業提携(2023.1~)		
4 ツーリズム関連事業 の強化	観光コンテンツの拡充/PRによる旅客誘致推進/旅行商品の造成/新たなマネタイズ方式の確立 ・高付加価値旅行商品の提供開始(2022.7~) ・シェアモビリティサービス「NK PEDAL」開始 (2022.8~)	ツーリズム戦略の深度化、事業化検討	
5 ニューノーマルでの 新たなサービス提供	新しいライフスタイルサービスの創出/シェアオフィス「Lieffice」の事業拡大 【2022年度 実施施策】 ・関西の鉄道会社初 会話を自動で字幕表示するサービスの実証実験 ・多言語対応「対話型AIロボット」の実証実験	⇒ 今後も「生活を便利にするサービス」をコンセプトに、お客さまや沿線住民の方々へのニーズに合う多様なサービスの提供を検討	

‘なんかいいね’があふれてる

トピックス-1

グレーターなんば構想の進捗状況について

グレーターなんば構想：なんばエリア広域MAP



①なんばパークス サウス

②なんば駅前広場

開発・計画中の案件

当社保有・管理物件

グレーターなんば構想：難波中二丁目開発計画

- 難波中二丁目開発計画エリアに新街区「なんばパークス サウス」を開業
- なんばエリアのさらなる魅力向上のため、観光やビジネスの新たな拠点を構える



‘なんかいね’があふれてる

大成建設株式会社 ご提供



	センタラグランド ホテル大阪	パークス サウス スクエア	ホテル京阪 なんばグランデ
	A敷地	B敷地	C敷地
用途	ホテル、店舗	オフィス、店舗、駐車場	ホテル、店舗
敷地面積	4,404㎡	2,506㎡	2,005㎡
延床面積	38,128㎡	19,683㎡	9,377㎡
構造・階数	SRC造・地上34階	S造・地上14階	S造・地上9階
開業	2023年7月1日	2023年7月1日	2023年3月25日
当社の 関与方	・サブリース (土地の転賃)	・SPCへの出資 ・開発業務の受託 ・サブリース (土地の転賃)	・建物の建設 ・ホテル事業者への 賃貸 (共同事業)

●ペDESTリアンデッキ整備



大成建設株式会社 ご提供

●くら寿司グローバル旗艦店オープン



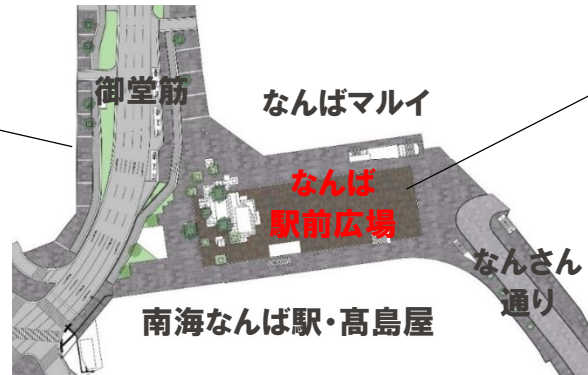
くら寿司株式会社 ご提供

グレーターなんば構想：なんば駅前広場整備

- なんば駅周辺を人中心の空間へ、2023年秋に広場部分先行供用開始予定
- 世界を惹きつける観光拠点として上質で居心地の良い、安全・安心な空間を創出



なんば駅前広場～なんさん通りを
車両通行止めとして、
歩行者空間化に向けた工事を進捗



【現況：2023年4月撮影】



【完成イメージ】



なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会 ご提供

‘なんかいいね’があふれてる

グレーターなんば構想：グレーターなんばビジョンの策定

- 当社グループが主体となって取り組むまちづくり宣言として策定
- 「多彩なステークホルダーとの共創」、「街の魅力づくり」を通じて、人を惹きつけ続ける次代のなんばを創造

まちづくり姿勢の明確化

わたしたちが社会に宣言する、グレーターなんば2050のあるべき姿

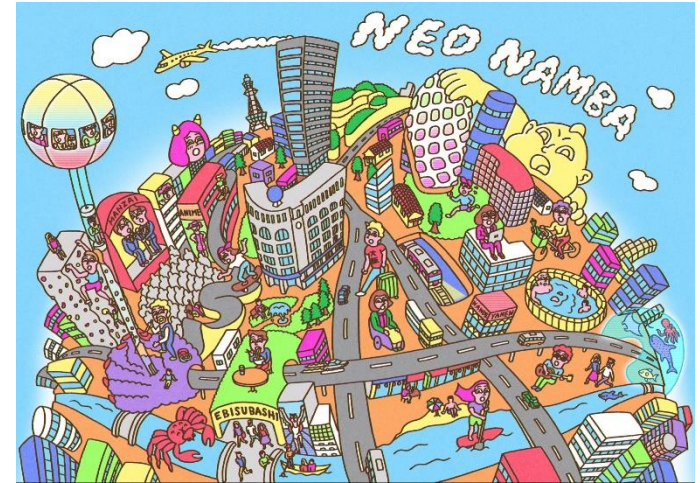
ENTAME-DIVER-CITY

-Meet! Eat! Beat! On NAMBA-

エンタメダイバーシティ -ミート! イート! ビート! オン ナンバー

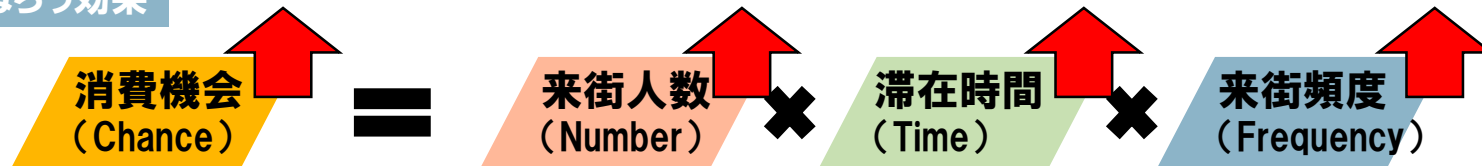
まちづくりの方針

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1
鉄道・オフィス・SCなど
なんばエリアの
既存リソースの深化</p> | <p>2
新駅周辺を核とした
不動産開発や
公共空間利活用</p> | <p>3
賑わいづくりの
担い手となる人財集積・
育成・コンテンツ開発</p> |
|---|---|---|



ENTAME-DIVER-CITYイメージ

ねらう効果



‘なんかいね’があふれてる

トピックス-2

不動産事業深化・拡大

物流施設の高度化:大阪府食品流通センターE棟

- E棟開業で安定収益の強化、事業ポートフォリオの安定化を着々と実現

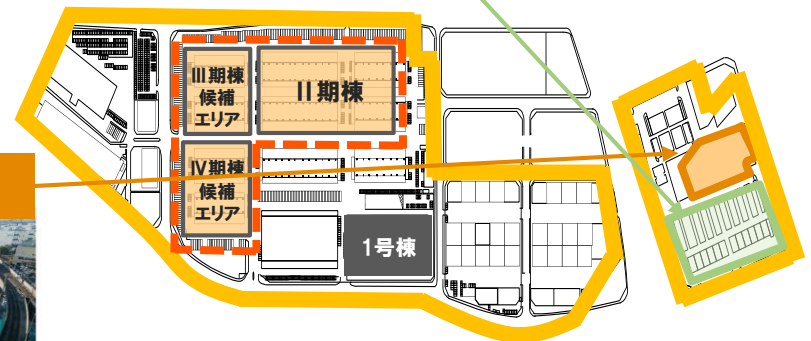
◆大阪府食品流通センターE棟

用途	配送センター・トラックターミナル
延床面積	49,975㎡
構造・階数	地上7階建(倉庫4階、事務所7階)
環境対応	屋上太陽光発電設備、LED照明、 外壁サンドイッチパネル
BCP対応	非常用発電機設置(3日間対応)
入居テナント	NXTトランスポート株式会社さま 名鉄運輸株式会社さま 株式会社ヒガシトゥエンティワンさま
竣工	2023年3月
投資額	73億円



【北大阪流通センター】

【大阪府食品流通センター】



加工食品卸売場
新A棟



※2022年12月12日に
「非常に優れた「環境・社会への配慮」が
なされた建物」として、
DBJ Green Building 認証を取得
(プラン認証:3つ星)

物流施設の高度化：北大阪トラックターミナル第II期棟

- 当施設内で最大規模のII期棟について高度化計画を具現化
- 免震構造の採用でBCP対応を強化、幅広いテナントのニーズに対応

◆ 北大阪トラックターミナル第II期棟

用途	配送センター・トラックターミナル
敷地面積	56,579㎡
延床面積	193,642㎡
構造・階数	免震構造、ダブルランプウェイ方式 地上6階建
事業費	約350億円(予定)
竣工	2026年3月(予定)



物流施設の高度化に関する全体スケジュール

※現時点の計画



泉北ニュータウンのサステナブルなまちづくり: 泉ヶ丘駅前活性化計画

- ニュータウン再生のパイロットモデルとして、泉ヶ丘駅前活性化計画を推進
- 2025年10月開業を目指し、プロジェクト進行中

泉ヶ丘駅前活性化計画	
用途	商業、金融サービス、オフィス、医療施設、広場機能等
敷地面積	約7,000㎡
延床面積	約16,000㎡
構造・階数	鉄骨造 地上4階、地下1階
開業	2025年10月(予定)



コンセプト

「医・職・充」が揃う郊外型ミクストユース

重点施策

- ① “PARK(広場)が主役”の環境空間を創る
- ② “walkable”な空間を創る
- ③ 泉ヶ丘ならではの“機会”を創る

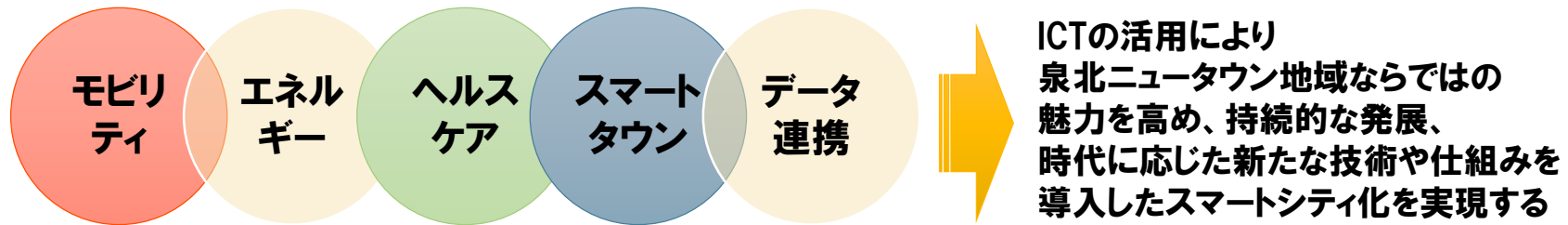
イメージパース



泉北ニュータウンのサステナブルなまちづくり: 泉北NTスマートシティ構想

- 堺市等と公民連携で「SENBOKUスマートシティコンソーシアム」を設立し、スマートシティ戦略を着々と推進
 - ※本コンソーシアム設立は2022年6月

- 2022年度は、5つのワーキンググループで11の事業を実施
- うち当社は「モビリティ」「ヘルスケア」「スマートタウン」の3WGでリーダーを務める



◆NANKAIオンデマンドバス実証事業

- 運行期間: 2023年1月10日～3月10日
- 運行区域: 桃山台、鴨谷台、光明池駅、
榎・美木多駅、泉ヶ丘駅



◆「へるすまーと泉北」アプリ実証実験

- これまでの実証実験では3回のフェーズに分け、操作性、有用性、事業性を検証
 - ➔ 知名度、満足度について良好な結果
- 2023年度は貯めたポイントをデジタルきっぷ(QRコード乗車券)と交換できる実証実験を実施



サステナブル経営の取組みについて

サステナビリティ方針ならびにサステナブル重要テーマ

サステナビリティ方針(2021年4月制定)

基本的な考え方

沿線エリアを中心に、地域住民・自治体・企業等、さまざまなステークホルダーと共創・協働し、企業理念の実践を通じて、「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立をめざします。

サステナブル重要テーマ(マテリアリティ)

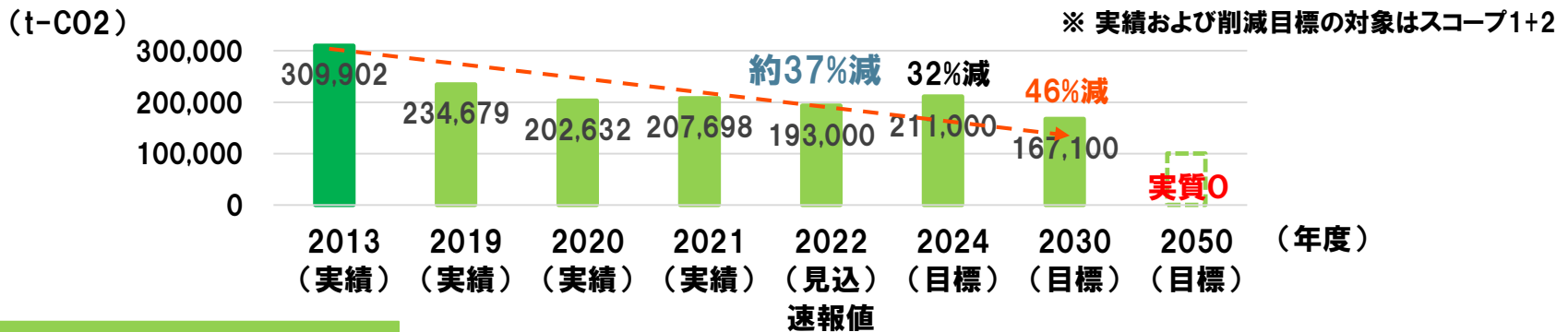
安全・安心・満足のさらなる追求	  	一人ひとりが能力を発揮できる職場・ひとづくり	    
賑わいと親しみのあるまちづくり	   	地球環境保全への貢献	       
夢があふれる未来づくり	   	誠実で公正な企業基盤強化	   
豊かな暮らしの実現	    		

具体的な取組み(1)

脱炭素社会の実現

● CO2排出量削減の取組みを推進

→ 2022年度は2013年度比で約37%減少を見込み、目標に向けて堅調に推移



気候変動への取組み

● TCFD提言へ賛同、TCFD提言に基づく情報を開示

【2022年度開示内容】

項目	内容
対象	南海電鉄単体の鉄道事業、不動産・流通事業
開示事項	気候変動に関するリスク(移行リスク/物理的リスク)と機会 リスク・機会により想定される定量的な事業インパクト(財務インパクト)

→ 2023年度は対象を一部のグループ会社まで拡大予定

具体的な取組み (2)

サステナブル経営の推進に向けて各方針を制定

開示時期	ESG	制定方針
2022.4	G	腐敗行為防止に関する基本方針
2022.6	S	健康宣言
2022.8	G	南海グループ資材調達方針
2022.8	S	南海グループ人権方針

GPIFが採用するESG投資指数に選定

- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPXカーボンエフィシエント指数

サステナビリティボンドの発行

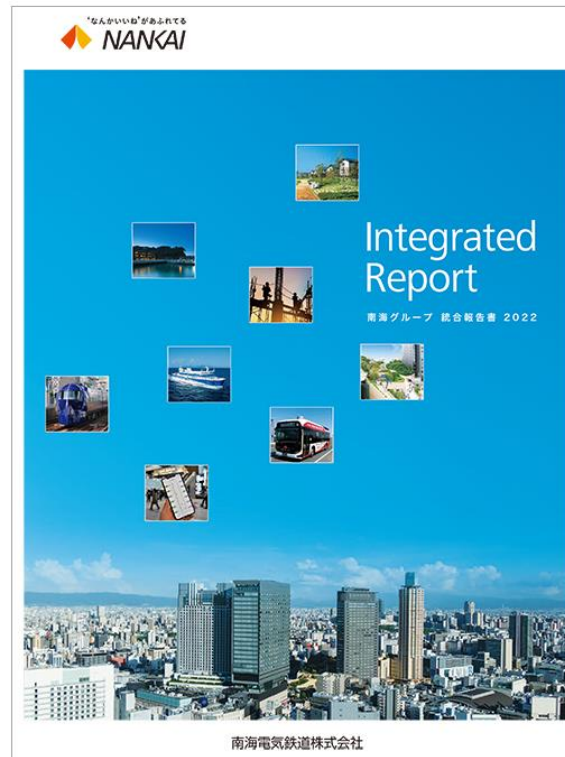
● 当社初のサステナビリティボンドを2023年3月に発行

発行総額	100億円
利率	年0.629%
発行年限	5年
投資表明 投資家	23団体(銀行、信用金庫、生命保険会社、 損害保険会社、資産運用会社、学校法人など)

具体的な取組み (3)

統合報告書2022が高評価を獲得

- 日本経済新聞社主催「日経統合報告書アワード2022」にて「優秀賞」を受賞
- 年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) の国内株式運用を委託している機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定



☞ サステナビリティに関する取組みの詳細は「[南海グループ統合報告書2022](#)」をご参照ください。

Appendix

【参考】2022年度 主な取組み(1)

日付	内容	開示資料URL
4/7	SkyDriveと南海電鉄が「空飛ぶクルマ」運航を目指し連携協定締結 ～大阪エリア、和歌山エリアでの「空飛ぶクルマ」活用を目指します～	URL
4/15	万博、IR、なにわ筋線を見据えて、難波エリアを国際的な観光都市に“エンタメ”と“ステイ”の力で都市格を高めるビジョン ～万博開催時のまちなかフェスティバル、なにわ筋線新駅周辺での拠点形成等を提案～	URL
5/25	2022年6月1日(水)から、新会社「eスタジアム株式会社」スタート! ～新会社は、南海電鉄から運営委託を受け、eスポーツ事業を一層推進していきます～	URL
6/9	「『親子でわくわく体験!南海沿線』～やってみたい!を育てよう～」開催、 子育て世代向けホームページ「なんかいくらし」を開設	URL
6/13	高付加価値旅行商品の提供開始!高野山での特別体験や宿泊プランをお届けします ～総本山金剛峯寺での演劇による没入型体験(初回7月17日)～	URL
6/14	泉佐野市が募集するプロポーザル実施予定者に採択決定! 「eスポーツ先進都市・泉佐野市」の確立を目指します。	URL
6/16	和歌山港線における『自動運転実証試験』に向けて事前準備を2022年7月から順次進めてまいります	URL
6/28	当社等で構成するSENBOKUスマートシティコンソーシアム準備会が 『SENBOKUスマートシティコンソーシアム』を設立	URL
7/19	8月22日から25日にかけて泉佐野市にて開催!全国の高校生を対象にしたゲーム合宿「eスポーツキャンプ」に人気ストリーマー『Jasper』などの新ゲスト来場が決定!	URL
7/20	高野山駅と加太駅(和歌山県)でシェアモビリティサービス「NK PEDAL(エヌケーペダル)」を8月1日から開始	URL

【参考】2022年度 主な取組み(2)

日付	内容	開示資料URL
7/22	新規事業開発プログラム発LAWN、EMOSHAREが経済産業省の「大企業人材等新規事業創造支援事業費補助金」(出向起業等創出支援事業)に、今年度も採択されました	URL
8/4	～より使いやすく、より南海らしく～公式ウェブサイトを8月4日からリニューアルオープン！	URL
8/5	“特急券付き”デジタルきっぷは今回が初！「ラピートデジタルきっぷ」を8月8日から発売開始！	URL
8/17	「リノベーションスクール@加太線」の開催に先立ち、2022年9月10日(土)、まちづくり講演会@加太線「わたしごとの楽しい郊外暮らし～得意なことからはじめる小さな商い」を開催	URL
8/18	「渋谷フクラス」が高野山に染まる10日間(8月26日～9月4日) 「大人の休息 旅する高野山 in Shibuya」開催	URL
8/24	中百舌鳥駅4番線のホームドア設置工事を開始します～2024年4月ごろ運用開始～	URL
8/24	～中百舌鳥駅のリニューアル工事進行中～9月17日(土)始発から東改札口の供用を開始します。 続いて、コンコースの店舗面積を約3倍に拡大し、駅的美装化を実施！	URL
8/25	～「eスポーツ先進都市・泉佐野市」の確立を目指して～ 「eスタジアム泉佐野」の開業など、3大施策を実施！	URL
8/25	【なんば駅周辺における空間再編推進事業】 11月8日(火)から、なんば駅前広場周辺を車両通行止めになります	URL
9/7	～全国初のパートナー店舗！～9月16日「eスタジアムいずみ」を開業します！	URL
9/16	「KiiPass Koyasan(キーパス高野山)」事業の一環として「高野山デジタルきっぷ」を9月27日から発売します!泉北高速鉄道ではQRコードを利用した「デジタルきっぷ」の発売は初！	URL

【参考】2022年度 主な取組み(3)

日付	内容	開示資料URL
9/28	南海グループとセブン-イレブン・ジャパン、コンビニエンスストアのフランチャイズ化に関する業務提携契約を締結 ～駅構内のコンビニエンスストアをセブン-イレブンに転換～	URL
10/6	10月27日(木)「泉ヶ丘から関空へ！日帰り体験モビリティ」を開催 【シニア向け・無料】水素バス乗車体験や小型モビリティ試乗体験、安全運転イベントツアー開催	URL
10/19	臨時列車による「サイクルトレイン」の実証実験を実施します	URL
10/24	HYBE JAPANが日本初開催する『THE CITY』プロジェクトとコラボレーション 特急ラビットやなんば駅を、世界的人気のK-POPグループ「SEVENTEEN」が“太陽のように”彩る！	URL
10/25	通勤車両への防犯カメラ設置に向けた試験の実施について～2022年10月29日(土)から～	URL
10/28	鉄道線旅客運賃の変更認可申請を行いました	URL
11/1	南海電鉄が海外IT人財紹介サービス「Japal」を南海不動産から事業譲受	URL
11/7	「空飛ぶクルマが叶える“未来型旅行体験”モニターツアー」の実施について ～11月10日(木)から募集開始！～	URL
11/8	関西・鉄道7社共同によるMaaSの構築について ～国内初の鉄道事業者連携による広域型MaaSを関西一円で展開～	URL
11/21	「eスタジアム泉佐野」を11月28日に開業！～eスポーツ先進都市・泉佐野の確立を目指して～	URL
12/2	「第4回関西eスポーツ学生選手権2022」を12月3日から開催！ ～年末は、オンライン上でもスポーツが熱い！	URL

【参考】2022年度 主な取組み(4)

日付	内容	開示資料URL
12/6	12月20日(火) 提携1号店「セブン-イレブン 南海なんば駅中央口店」オープン	URL
12/6	南海グループは12月12日以降も、「Visaのタッチ決済」「デジタルきっぷ」のサービスを継続します～インバウンド旅客を含む、お客さまの受け入れ体制強化～	URL
12/20	12月22日「eスタジアム岐阜」を開業！岐阜県で初の常設eスポーツ施設が誕生！	URL
12/20	「NANKAIオンデマンドバス」の実証事業を2023年1月10日から開始	URL
1/10	2月11日(土・祝) から午前時間帯の「特急ラピート」を増便します	URL
1/10	3月25日開業「ホテル京阪 なんば グランデ」竣工のお知らせ	URL
1/10	- なんばエリアに新たなオフィスビルが誕生 - 「パークス サウス スクエア」本日竣工！	URL
1/13	プロeスポーツチーム「ENTER FORCE.36」が大阪に本拠地を移転！ 南海電鉄はオフィシャルパートナーとして支援します。	URL
1/17	産学金で共創し、海外IT人材紹介サービス「Japal」を通じて地元企業の成長を支援します！	URL
1/19	1月24日(火) から、難波駅・関西空港駅にて 多言語対応「対話型AI案内ロボット」の実証実験を開始します	URL
1/19	【泉北高速鉄道】 鉄道運賃を改定します～当社線内の小児IC運賃を一律50円に変更するのは関西の鉄道初～	URL

【参考】2022年度 主な取組み(5)

日付	内容	開示資料URL
1/26	東京工業大学と協働で、「高野線列車内の混雑状況の可視化」に関する実証実験を行います	URL
2/2	QRコードを利用した乗車券「南海デジタルきっぷ」をリニューアル販売します！	URL
2/3	鉄道線旅客運賃の改定申請が認可されました	URL
2/16	【関西の鉄道会社で初】会話を自動で字幕表示する「透明ディスプレイを活用したユニバーサルコミュニケーションサービス」の実証実験を実施します	URL
2/16	【なんばパークス】新たに26店舗が順次オープン！「中島 美嘉ライブ&トークイベント」も開催！ ～グランドオープン15周年記念リニューアル～	URL
3/1	新街区「なんばパークス サウス」が誕生！ ～日本初進出の高級ホテルやSHOPS & RESTAURANTSなど～	URL
3/8	最高峰のeスポーツ大会「VALORANT Challengers Japan 2023 Split 1 - Playoff Finals」の 関西特別パートナーに就任！	URL
3/22	『Pok é mon GO』の「ポケストップ」や「ジム」として 南海グループの駅やバス停、商業施設など最大1,600箇所が登場	URL
3/24	次代をつくるグレーターなんばビジョン 「ENTAME-DIVER-CITY ～Meet！ Eat！ Beat！ On NAMBA～」を策定	URL
3/27	eスポーツの取組みが「FOST社会貢献賞」を受賞！	URL

【参考】共創140計画 数値目標

- 営業利益・純有利子負債残高/EBITDA倍率をともに改善させ、将来の成長に向けた財務基盤の整備に取り組む
- CO2排出量についても、2030年度に向けて計画的に削減を図る

計画の最終年度にあたる2024年度の数値目標(連結ベース)は以下のとおり

営業利益 ^{※1}	280億円
純有利子負債残高/EBITDA倍率 ^{※2}	7.5倍以下

※1 営業利益+受取配当金

※2 営業利益+受取配当金+減価償却費

<参考>

設備投資額(3か年総額)	1,600億円
CO2排出量削減(2024年度)	2013年度比32%減

【参考】数値計画：連結ハイライト

- 2022年度実績：業績予想対比で上振れ・改善で着地
- 2023年度予想：中計策定時の計画対比で上振れ・改善を予想

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想 (2023年4月公表)	2024年度 計画
営業利益 ^{※1}	129 億円	220 億円	255 億円	280 億円
純有利子負債残高	4,460 億円	4,361 億円	4,298 億円	4,339 億円
純有利子負債残高/EBITDA ^{※2} 倍率	10.7 倍	8.8 倍	8.0 倍	7.5 倍

	2021年度 実績 ^{※4}	2022年度 実績	2023年度 予想 (2023年4月公表)	2024年度 計画
設備投資総額 ^{※3}	214 億円	301 億円	533 億円	660 億円
未来探索	—	8 億円	64 億円	57 億円
収益拡大	62 億円	99 億円	145 億円	380 億円
安全・更新	152 億円	194 億円	324 億円	223 億円

- ※1 営業利益＋受取配当金
 ※2 営業利益＋受取配当金＋減価償却費
 ※3 連結消去前数値、出資等を含む
 ※4 2021年度実績は連結消去後数値で出資等を含まない

【参考】設備投資：3か年 1,600億円の内容

- 事業戦略骨子に沿い、適切な投資枠を確保
- 「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立を目指し、一定の投資額を“サステナブル投資”に振り向ける

1. 公共交通事業のサステナブルな経営

520億円：

- ・ サステナブルな交通ネットワーク維持のため、計画的な安全投資および更新投資を実施する

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

930億円：

- ・ REITにより開発資金を確保しつつ、なんばエリアや泉ヶ丘エリア、物流施設の高度化等に集中投資する

3. 未来探索

150億円：

- ・ 鉄道と不動産に続く第3の柱構築に向けて、中長期的な目線で予算を配分する

うち サステナブル投資(※)

- ・ **災害対策投資：50億円**
激甚化する災害への備え・予防対策
 - ・ **DX推進投資：90億円**
データ・デジタル技術を駆使した、新たな価値・働き方の創出
 - ・ **CO2削減投資：190億円**
地球温暖化の緩和および脱炭素社会への移行の機会活用
 - ・ **ブランド向上投資：160億円**
商品・サービス・コーポレート・地域のブランド向上
 - ・ **多様性向上投資：40億円**
多様な従業員の働きやすさ向上
- **合計：460億円**(一部重複項目あり)

※サステナブル経営に掲げるマテリアリティ実現に向けた主な投資

‘なんかいいね’があふれてる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027

- 「南海グループ経営ビジョン2027」の骨子は現時点でも不変、如何に深化させるか

《2027年のありたき姿》

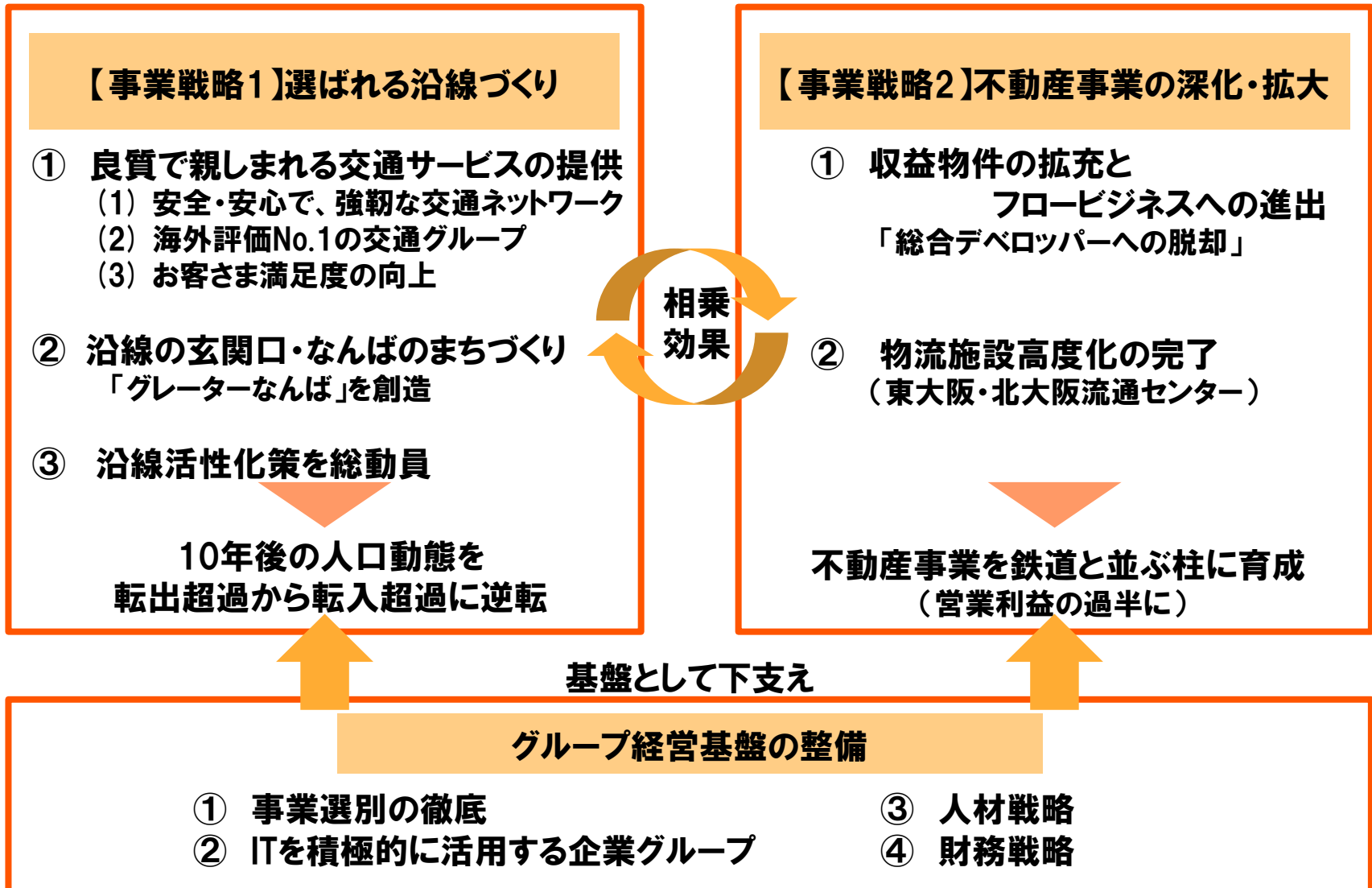
**満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる**

位置づけ

**なにわ筋線開業に向け、
沿線を磨く10年間**

- 沿線を主たる事業エリアとし、グループの総力を挙げて沿線価値向上に注力する
- 「なんば」と「インバウンド」をビジネスチャンスとして活用することで、沿線価値向上を加速させる
- アライアンスを積極活用することで、事業展開をスピードアップさせる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027：事業戦略骨子



【参考】南海が描く“2050年の企業像”

地域共生・共創 多様な暮らし方

地域の人々とともに

地域密着を旗印に、地域・沿線の人々とのつながりを大切に保ち、多種多様な人々が幸せに暮らせる多彩な“まち”を、地元と一体となって創っていく。

モビリティ

公共交通事業者としての使命

これまで沿線で培ってきた安全・安心の運輸事業の歴史とその責任を、“人と人”、“まちとまち”、そして“人とまち”をつなぐ多様なモビリティ事業への深化で具現化し、未来につなげていく。

沿線への誇りを礎に、

関西にダイバーシティ^(※)を築く

事業家集団

多様性・グローバル

“Think Globally, Act Locally”

関空という世界(アジア)とつながる玄関口、そして“なんば”という多彩なまち…、これからも世界から多様な人々が集うこの地に寄り添いながら、互いの価値観や個性を認め、高めあえる多様性を育てていく。

南海らしさ

“みらい”を自ら切り拓く強い意志

創業からの長い歴史、その道筋で築いてきた南海グループの文化とアイデンティティ、そしてこの先の新たなロードマップ。私たちは、社会の一員としての使命と責任を胸に、新しいことに“挑戦し”、“やりきる”事業家集団となり、南海の“みらい”を切り拓いていく。

(※) **ダイバーシティ:**

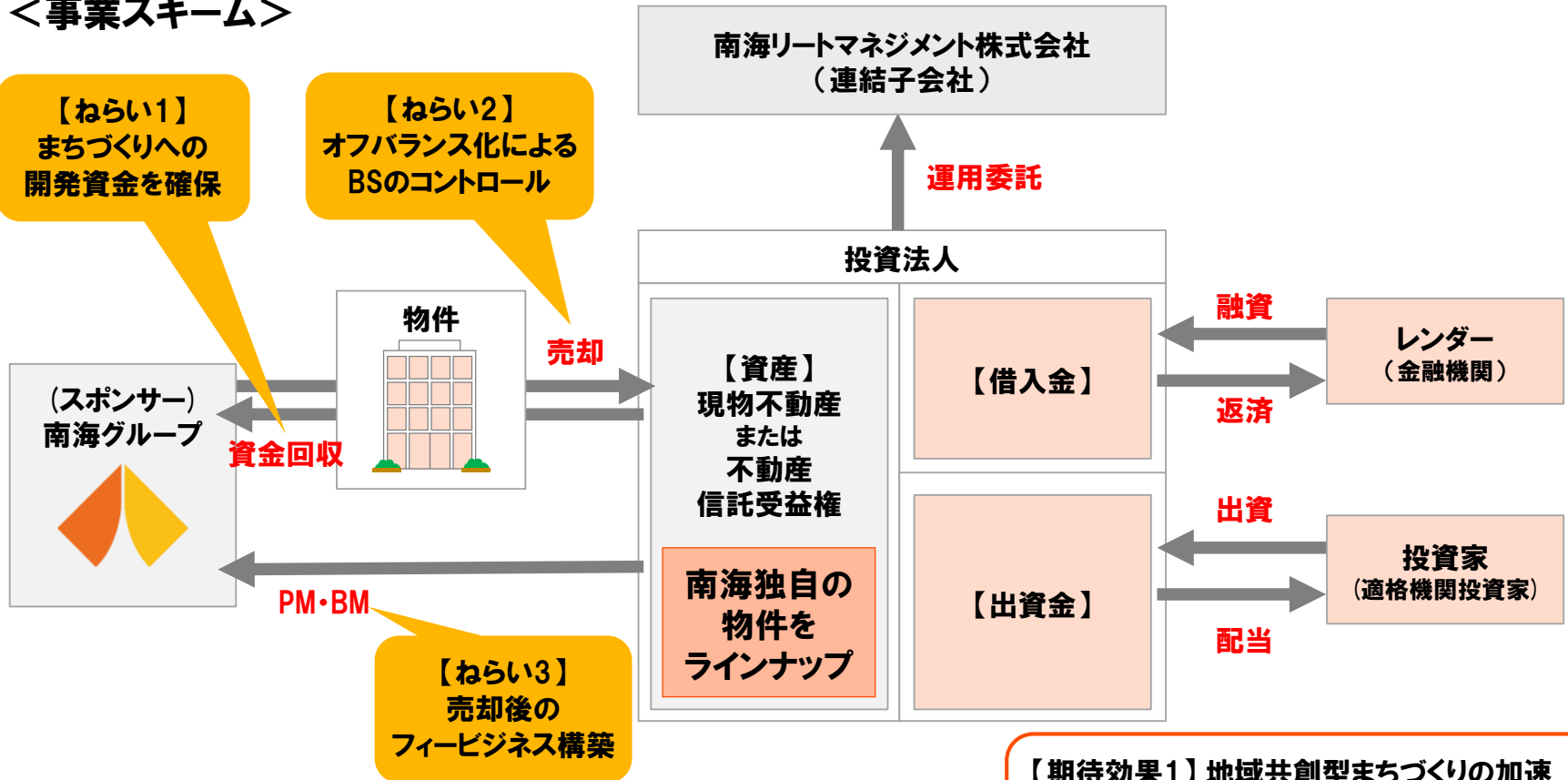
「多様性」に代表される“Diversity”と、「多様性あふれる街」を意味する“Diverse City”=“DiverCity”(造語)の2つの想いを表現している

‘なんかいね’があふれてる

【参考】私募リートの進捗状況

- 2022年10月にAM会社「南海リートマネジメント株式会社」を設立
- 許認可に必要な手続きを進め、投資法人の設立、早期運用開始を目指す

<事業スキーム>



【参考】eスポーツの取組みについて

- 2022年度は施設運営とイベントの2軸で施策を実行
- 早期のマネタイズに向け、引き続きあらゆる可能性について模索していく

施設運営事業

- ・ ショールーム:eスタジアムなんば
- ・ 直営店舗:eスタジアム佐賀、eスタジアム岐阜
- ・ FC店舗:eスタジアムいずみ
- ・ 行政受託:eスタジアム泉佐野



イベント事業

- ・ 自主企画:関西eスポーツ学生選手権
- ・ 行政受託:eスポーツキャンプ
- ・ 大会参画:「VALORANT」公式大会関西特別パートナー就任



※上記に加え、神戸大学協力のもと、
メンタルヘルスケアに関するセミナーなどを開催

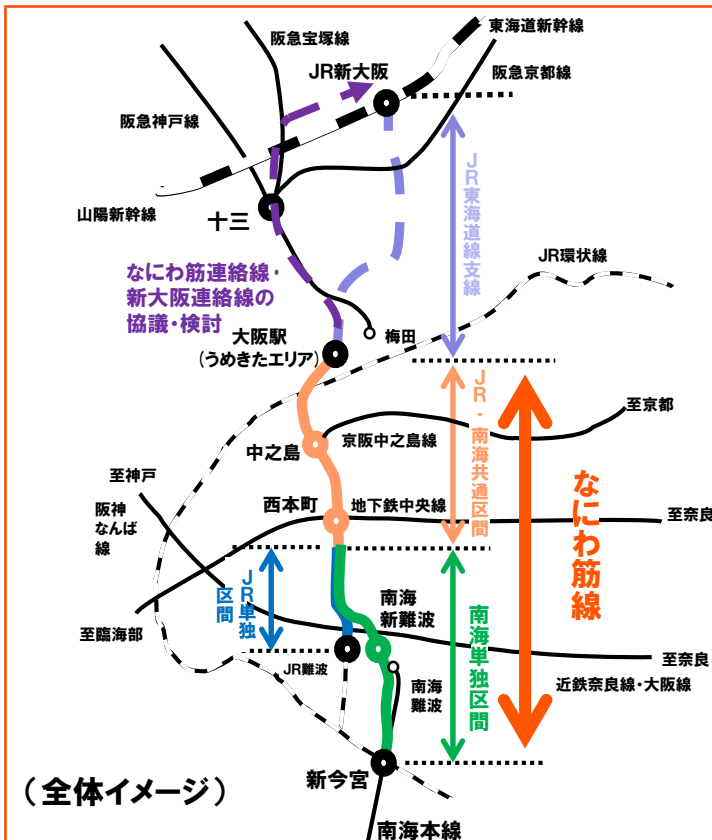


プレイヤーファーストを掲げ、学生に寄り添いながら、
親世代への理解促進に継続して取り組んできた活動が評価され
公益財団法人科学技術融合振興財団主催の「FOST社会貢献賞」を受賞

【参考】なにわ筋線計画について

● なにわ筋線

- ・ 2019年7月に鉄道事業許可の交付、2020年2月に工事施行認可の取得、都市計画決定の告示
- ・ 2021年度下期以降、中之島駅部、西本町駅部では本格的な工事に着手、南海新難波分岐トンネル部では開削工事に向けた準備工事を推進中
- ・ 引き続き用地買収を進めるとともに、その他区間の工事にも着手し、2031年春の開業を目指す



なにわ筋線計画概要

整備区間	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪駅(うめきたエリア)～(仮称)西本町駅～南海新今宮駅 ・大阪駅(うめきたエリア)～(仮称)西本町駅～JR難波駅
中間駅	(仮称)中之島駅、(仮称)西本町駅、 (仮称)南海新難波駅
総事業費	約3,300億円(概算) うち 地方自治体出資 約330億円 (大阪府165億円、大阪市165億円) 民間出資 約330億円 (南海電鉄185億円、JR西日本145億円)
整備主体	関西高速鉄道株式会社
営業主体及び営業区間	南海電気鉄道株式会社 営業区間:大阪駅(うめきたエリア)～南海新今宮駅 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 営業区間:大阪駅(うめきたエリア)～JR難波駅
開業目標	2031年春

※「大阪駅(うめきたエリア)」は、東海道支線地下化・新駅設置事業において、2023年3月に開業

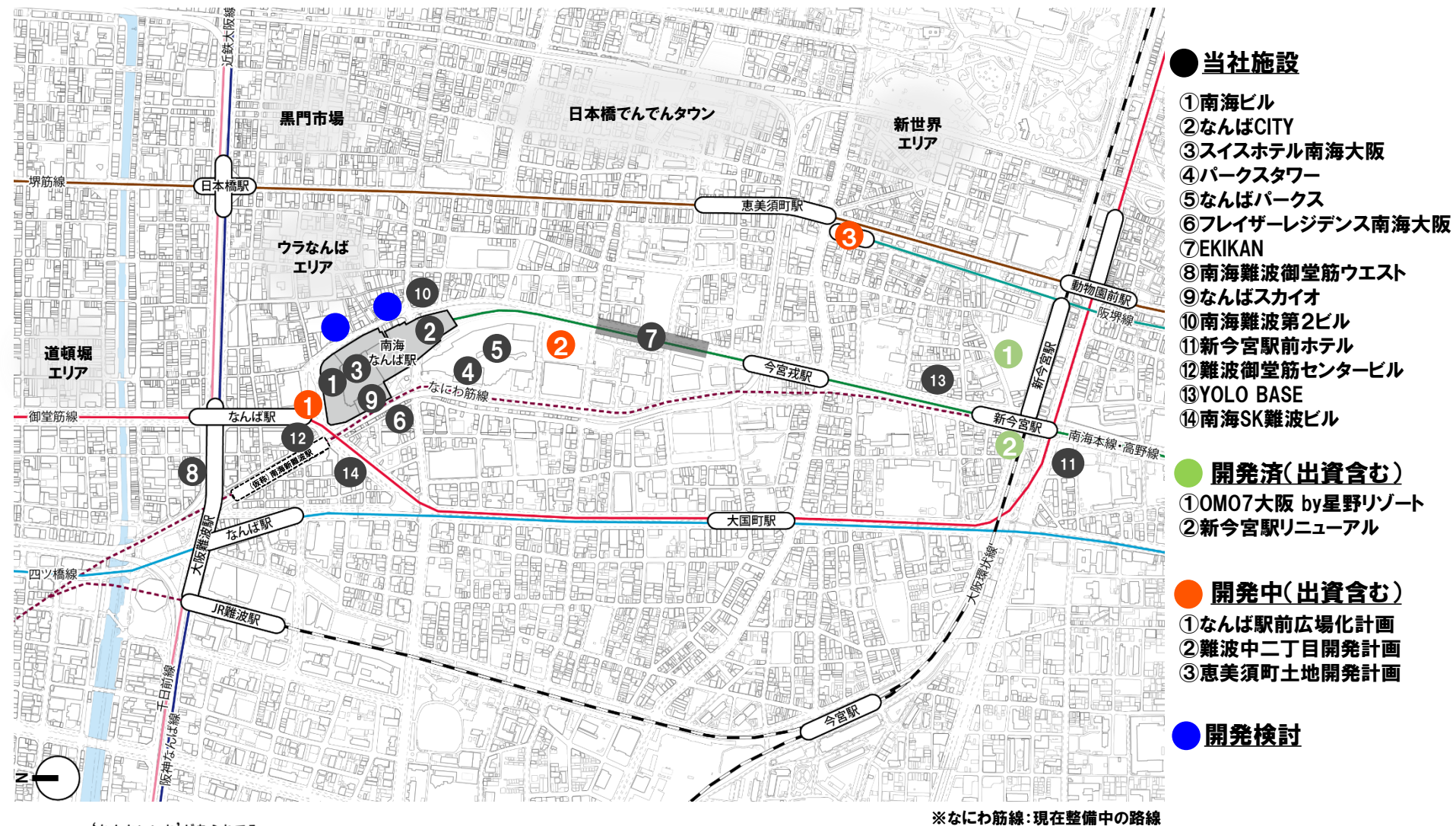
(参考)

- ・ なにわ筋連絡線・新大阪連絡線は、2017年度の国による調査が行われ、良好な結果が得られた
- ・ 調査結果を踏まえて、早期事業化を目指し、関係者での協議・検討を進める

【参考】沿線マップ



【参考】グレーターなんばエリア 主な当社施設(MAP)



‘なんかいいいね’があふれる

【参考】グレーターなんばエリア 主な当社施設(一覧表)

施設名	賃貸面積	竣工年月(取得年月)	主な用途
①南海ビル	49,827㎡	1932年7月	高島屋大阪店、店舗
②なんばCITY	約33,200㎡	1978年※2	商業施設
③スイスホテル南海大阪	61,557㎡	1990年3月	ホテル
④パークスタワー	36,500㎡	2003年8月	オフィス、店舗
⑤なんばパークス	約51,800㎡	2003年10月※2	商業施設
⑥フレイザーレジデンス南海大阪	7,332㎡※1	2010年7月	サービスアパートメント
⑦EKIKAN	約3,700㎡	2014年※2	商業施設
⑧南海難波御堂筋ウエスト	4,286㎡	1985年9月(2018年7月)	オフィス
⑨なんばスカイオ	45,927㎡	2018年10月	オフィス、医療施設、ホール・カンファレンス、商業サービス施設
⑩南海難波第2ビル	1,500㎡※1	1988年11月(2018年11月)	オフィス
⑪新今宮駅前ホテル	4,952㎡※1	2018年8月(2018年12月)	ホテル
⑫難波御堂筋センタービル	(当社保有分) 5,665㎡ (全体) 6,217㎡	1992年3月(2019年4月)	オフィス、店舗
⑬YOLO BASE	3,156㎡※1	2019年9月	コワーキングスペース、学生寮
⑭南海SK難波ビル	14,141㎡	1983年3月(2020年2月)	オフィス

※1 延床面積

※2 第1期オープン

(2023年5月19日現在)

<IRのお問い合わせ先>

**南海電気鉄道株式会社
財務戦略グループ サステナビリティ推進部(IR担当)**

TEL :06-6644-7105
E-mail:nankai_ir@nankai.co.jp

<https://www.nankai.co.jp/>

「見通し」に関する注意事項

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。

本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。